PC98-NX

活用ガイド
ハードウェア編

本体の構成各部

周辺機器を利用する

システム設定

PC98-NX シリーズ

Mate

液晶一体型

（Windows XP Home Edition インストールモデル）

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

ご購入いただいたモデルによっては、下記以外にもマニュアルが添付されている場合があります。『はじめにお読みください』「6.マニュアルの使用方法」でご確認ください。

◆ 添付品の確認、本機の接続、Windows XP Home Editionのセットアップ
➡『はじめにお読みください』

◆ 本機を安全に使うための情報
➡『安全にお使いいただくために』

◆ Windowsの基礎知識、基本的な操作方法
➡ Microsoft社製『ファーストステップガイド』

このマニュアルです

◆ 本機の各部の名称・機能、システム設定(BIOS設定)
➡『活用ガイド　ハードウェア編　液晶一体型』(電子マニュアル)

◆ 本機の機能を拡張する機器の取り付け方、内部構造の説明
➡『活用ガイド　ハードウェア編　液晶一体型』(電子マニュアル)

◆ 本機にインストール/添付されているアプリケーションの削除/追加、他のOSのセットアップ
➡『活用ガイド　ソフトウェア編』(電子マニュアル)

◆ トラブル解決方法
➡『活用ガイド　ソフトウェア編』(電子マニュアル)

◆ 再セットアップ方法
➡『活用ガイド　再セットアップ編』

◆ 環境に関する情報
➡『環境ガイド』

◆ 選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)の利用方法
➡ Office XP Personal、Office XP Professionalがあり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルによって異なります。

◆ パソコンに関する相談窓口、受講施設、故障時のサービス網、およびNECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」のご案内
➡『NEC PCあんしんサポートガイド』

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。
http://www.microsoft.com/japan/info/press/

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windowsの基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それらを操作するためのマウスの基本的な動作が一通りでき、Windowsもしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。

もし、あなたがパソコンに初めて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。

PC98-NXシリーズ Mate
MA90W/F、MA80W/F
（Windows XP Home Editionインストールモデル）

選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。

仕様についての詳細は、「PART4　付録」をご覧ください。

2002年 6 月　初版

853-810067-348-A

このマニュアルの表記について

◆ このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

⚠警告　人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

⚠注意　人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみ発生が想定されることを示します。

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左記の記号の場合は、感電の可能性が想定されることを示します。感電注意の他に、発火注意、けが注意、高温注意についても、それぞれのマークとともに記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。また、全体に関する注意については、「注意事項」としてまとめて説明しています。

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。

参照　マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

◆ このマニュアルで使用している表記の意味

本機　次の機種を指します。
PC98-NX シリーズ Mate
MA90W/F、MA80W/F
(Windows XP Home Editionインストールモデル)
＊本機がどのモデルに該当するかは、型番を調べればわかります。型番の調べ方・読み方については、『はじめにお読みください』をご覧ください。

本体　キーボードなどの周辺機器を含まない、MA90W/F、MA80W/Fを指します。

アプリケーションレスモデル	選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)がない状態でご購入いただいたモデルです。
Office XP Personalモデル	Office XP Personalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
Office XP Professionalモデル	Office XP Professionalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルです。
CD-ROM	CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROMまたはDVD-Rを指します。書き分ける必要のある場合は、その媒体の種類を記載します。
「スタート」ボタン→「終了オプション」	ログオンやログオフの方法を変更している場合は、「終了オプション」のメニューが異なります。このマニュアルでは「ようこそ画面」を使用している場合を例に説明しています。
「スタート」ボタン→「コントロールパネル」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。また、コントロールパネルはカテゴリ表示された状態を指します。
【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
『 』	『 』で囲んである文字は、マニュアルの名称を指します。

◆ このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版
Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版
Windows XP Home、Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版
Windows 2000、Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows NT Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0日本語版およびMicrosoft® Windows NT® Server Network operating system Version 4.0日本語版
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 operating system日本語版およびMicrosoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版

Office XP Personal	Microsoft® Office XP Personal
Office XP Professional	Microsoft® Office XP Professional
MS-IME2002	Microsoft® IME 2002
Norton AntiVirus	Norton AntiVirus™ 2002
RecordNow DX	VERITAS RecordNow DX
DLA	VERITAS DLA

◆ このマニュアルの記載順序

1. CPUの性能が高い順に記載しています。
2. OSは、次の順序で記載しています。
   Windows XP、Windows XP Home、Windows 2000、Windows NT 4.0、Windows Me、Windows 98

◆ このマニュアルで使用しているイラスト

・このマニュアルに記載のイラストは、実際のものとは異なることがあります。
・このマニュアルに記載のイラストは、特にことわりのない場合、CD-ROMドライブが搭載されたモデルのものを使用しています。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。
対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

■瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。
(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

■レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブが搭載されています。

2.4GHzワイヤレス(無線)LANを搭載したモデルの場合

■技術基準適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	認証番号
ORiNOCO無線LANシステム	D00-1222JP

■無線の帯域と性能について

本機には、2.4GHz帯高度化小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品は、2.4GHz全帯域(2.4GHz〜2.4835GHz)を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域(2.427GHz〜2.47075GHz)が回避可能です。
変調方式としてDS-SS方式を採用しており、与干渉距離は40mです。

■無線設備について

本機は、日本国における電波電波法施行規則第6条第4項第4号「小電力データ通信システムの無線局」を満足した無線設備であり、日本国における端末設備等規則第36条「電波を使用する自営電気通信端末設備」を満足した端末設備です。
分解や改造などを行っての運用は違法であり、処罰の対象になりますので絶対に行わないでください。また、本製品は日本国以外ではご使用になれません。

■電波防護標準規格について

本機の電波出力は、社団法人電波産業会が策定した「電波防護標準規格(RCR STD-38)」に基づく基準値を下回っています。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたら、ご購入元、またはNEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows XP Home Editionおよび本機に添付のCD-ROMは、本機のみでご使用ください。
(7) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
(8) ハードウェアの保守情報をセーブしています。
(9) 本書に記載しているWebサイトや連絡先は、2002年5月現在のものです。

■ 輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.
NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.
NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law.
Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

＊1: NEC Corporation, NEC Custom Technica, Ltd.

このマニュアルの構成・読み方

このマニュアルはPART1からPART4までの構成となっていますが、PART1から順に読んでいく必要はありません。
『はじめにお読みください』でセットアップが完了しましたら、必要に応じてこのマニュアルを活用してください。
なお、各PARTの最初のページにも「この章の読み方」と「この章の内容」がありますので、各PARTを読む前にご覧ください。
また、このマニュアルは検索性を高めるため、目次の次に索引を記載しています。
索引に載せてある用語は、目次、注意していただきたい内容(チェック!!)、用語(用語)、メモ(メモ)を検索するのに都合の良い言葉を選んでいます。

目次

索引

PART1　本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明しています。

PART2　周辺機器を利用する

接続できる周辺機器の概要とメモリ、PCカードなどの周辺機器を増設する方法について説明しています。

PART3　システム設定

本機を使用環境にあわせて設定するための、BIOSセットアップメニューの使い方を説明しています。
別売の機器を利用するときにも、状況に応じて設定を変更できます。

PART4　付録

本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

目 次

はじめに 3
このマニュアルの表記について 4
2.4GHzワイヤレス(無線)LANを搭載したモデルの場合 8
ご注意 9
このマニュアルの構成・読み方 11
目次(このページです) 12
索引 16

PART 1

本体の構成各部 21

各部の名称 22
- 本体正面 22
- 本体右側面 25
- 本体左側面 26
- 本体背面 27

電源 30
- 電源の状態と操作方法 30
- 電源の入れ方/切り方(電源の手動操作) 32
- スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作) 33
- 休止状態/休止状態からの復帰(電源の手動操作) 37
- 電源の自動操作 39

キーボード 41
- 添付されるキーボードの種類 41
- 使用上の注意 42
- PS/2 109キーボード、USB109キーボード 43
- テンキー付きPS/2小型キーボード、テンキー付きUSB小型キーボード 45
- 日本語入力 47
- USB接続のキーボードの使用上の注意 48

マウス 49
- マウスについて 49

ディスプレイ 50
- 使用上の注意 50
- 表示能力 50
- ディスプレイの省電力機能 51

ハードディスクドライブ 52

使用上の注意 52
ドライブ番号の割り当て 54
エラーチェックの操作手順 55
CD-ROMドライブ 56
再生できるCDの種類 56
CD-ROMドライブ使用上の注意 57
非常時のディスクの取り出し 57
CD-R/RWドライブ 58
再生できるCDの種類 58
CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット 58
CD-R/RWドライブ使用上の注意 59
非常時のディスクの取り出し 59
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ 60
再生できるCDおよびDVDの種類 60
CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット 61
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ使用上の注意 61
非常時のディスクの取り出し 62
サウンド機能 63
音量の調節 63
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード 64
LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続 64
LANの設定 65
リモートパワーオン機能の設定 66
2.4GHzワイヤレス(無線)LAN機能 68
2.4GHzワイヤレスLAN使用上の注意 68
2.4GHzワイヤレスLAN製品との接続 68
2.4GHzワイヤレスLANの設定 69
セキュリティ/マネジメント機能 73
セキュリティ/マネジメント機能の概要 73
セキュリティ機能 74
マネジメント機能 76

PART 2

周辺機器を利用する 79

接続できる周辺機器 80
接続にともなう注意点 81
接続前の確認 81
プラグ&プレイ セットアップについて 81
デバイスドライバの追加について 82
接続時に注意すること 83
接続がうまくできない場合 84
リソースの競合が起こったら 85
本体カバー類の取り外し 87
LCDリアカバーの取り外し 87
LCDリアカバーの取り付け 89
増設RAMボード(メモリ)の取り外し/取り付け 90
取り付け前の確認 90
増設RAMボードの取り外し 90
増設RAMボードの取り付け 93
メモリ容量の確認方法 96
PCカードを利用する 97
PCカードスロットについて 97
使用上の注意 98
PCカードの取り付け 99
PCカードの取り外し 100
VersaBay IVを利用する 102
VersaBay IVで使用できる機器 102
VersaBay IVの機器を交換する 102
2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードの取り外し/取り付け 104
2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードの取り外し 104
2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードの取り付け 108

PART 3

システム設定 115

BIOSセットアップメニューについて 116

BIOSセットアップメニューの起動と初期画面 116

BIOSセットアップメニューの終了 117

工場出荷時の設定値に戻す 117

Mainの設定 119

Mainの設定 119

Advancedの設定 121

Advancedの設定 121

Securityの設定 125

Securityの設定 125

パスワードの解除 130

Powerの設定 132

Powerの設定 132

Bootの設定 134

起動順位の設定 134

PART 4

付　録 137

機能一覧 138

型番の読み方 138

仕様一覧 138

割り込みレベル・DMAチャネル 142

本機のお手入れ 144

マウスのクリーニング 145

索　引

英数字

100BASE-TX ……… 64
109キーボード ……… 43
10BASE-T ……… 64
121ware ……… 81
1Gバイト ……… 53
1Mバイト ……… 53
2.4GHzワイヤレス(無線)LAN ……… 68
2.4GHzワイヤレス(無線)LAN機能仕様 ……… 141
AC電源コネクタ ……… 27
Assign HDD Password ……… 128
BIOS Revision ……… 120
BIOSセットアップメニュー ……… 116
Boot-time Diagnostic Screen ……… 120
CD-R ……… 58
CD-R/RW with DVD-ROMアクセスランプ ……… 24
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ ……… 23, 60
CD-R/RWアクセスランプ ……… 24
CD-R/RWドライブ ……… 23, 58
CD-ROM ……… 56
CD-ROMアクセスランプ ……… 24
CD-ROMドライブ ……… 23, 56
CD-RW ……… 58
Diskette Access ……… 126
DMAチャネル ……… 142
DMI Event Logging ……… 123
DPMS ……… 51
Event Logging ……… 123
Extended Memory ……… 120
High-Speed CD-RW ……… 58
I/O Device Configuration ……… 121
I/Oロック ……… 74, 129
IEC825 ……… 7
JEITA ……… 97
JIS ……… 7
Keyboard Features ……… 120
LANボード機能仕様 ……… 140
LAN用モジュラーコネクタ ……… 27
Local Bus IDE adapter ……… 122
MS-IME ……… 47
Network Boot Agent ……… 123
Network Boot Setting ……… 127
Nキーロールオーバ ……… 42
Office XP ……… 5
On PME ……… 133
Password On Boot ……… 126
PC-11-1988 ……… 7
PCI Configuration ……… 121
PCMCIA ……… 97
PCカード ……… 97

PCカードイジェクトボタン ········· 26
PCカードスロット ························ 26
Plug & Play O/S ··················· 121
PME ···································· 133
Primary Master ···················· 119
Primary Slave ······················ 119
PS/2接続キーボードコネクタ ······ 28
PS/2接続マウスコネクタ ············ 29
QuickBoot ························· 122
QuickBoot Mode ·················· 122
READMEファイル ······················ 84
Removable Devices ··············· 134
Restore On AC/Power Loss ··· 133
Resume On Modem Ring ······ 133
Resume On Time ················· 133
Secondary Master ················ 119
Secondary Slave ·················· 119
Security Mode ···················· 126
Set Supervisor Password ······ 125
Set User Password ··············· 126
Sound ································· 123
System backup reminder ······ 127
System Memory ·················· 120
System Switch ···················· 132
USB CD-ROM ······················ 135
USB Packet Size ·················· 120
USBケーブルフック ················ 27
USBコネクタ ··················· 26, 27
USBハブ ······························ 48
VCCI ···································· 7
VersaBay IV ················· 23, 102
VersaBay IVアンロック ··· 28, 103
Virus check reminder ··········· 127
Windowsキー ················ 43, 45

ア行

赤い「×」 ······························ 85
ウイルス ······························ 75
ウィンドウアクセラレータ ········· 50
エネルギースター ····················· 7
エラーチェック ······················· 55
エンドユーザ管理 ····················· 75
音量の調節 ···························· 63

カ行

解像度 ································· 50
型番の読み方 ························ 138
キーボード ···························· 41
キーロールオーバ ····················· 42
黄色い「！」 ·························· 85
起動順位 ····························· 134
輝度調整ボタン ······················· 25
休止状態 ······························ 37
筐体ロック ····················· 27, 75
クライアントモニタリング ········· 77
ケーブルカバー ······················· 28
工場出荷時の設定値 ················ 117

サ行

サウンド機能 ························· 63

自己診断画面 …… 120
資産管理 …… 77
周辺機器 …… 79
重要な情報 …… 84
瞬時電圧低下 …… 7
省電力機能 …… 51
シリアルコネクタ …… 28
スーパバイザパスワード …… 125
スキップセクタ …… 53
スタンバイ状態 …… 33
セカンドハードディスクドライブ …… 23, 102
セキュリティ機能 …… 74
接続可否の確認 …… 81
接続前の確認 …… 81
増設RAMボード …… 90

タ行

タイマ …… 39
通風孔 …… 27
ディスクトレイイジェクトボタン …… 24
ディスプレイ …… 50
デバイスドライバの追加 …… 82
テンキー付きキーボード …… 45
電源 …… 30
電源スイッチ …… 22
電源ランプ …… 22
電波障害自主規制 …… 7
盗難防止用ロック …… 28
ドライブ番号 …… 54
トラブル解決Q&A …… 85

ナ行

内蔵スピーカボリューム …… 25
日本語入力 …… 47
ネットワークブート機能 …… 77

ハ行

ハードディスク/光ディスクアクセスランプ …… 23
ハードディスクドライブ …… 52
ハードディスクパスワード …… 74, 131
ハイパワーデバイス …… 48
パケット …… 76
バックアップ …… 52
ハブ …… 64
パラレルコネクタ …… 28
表示色 …… 50
復帰 …… 31
プラグ&プレイ …… 81
不良セクタ …… 53
ヘッドホン端子 …… 25
補足説明 …… 84
ボリュームコントロール …… 63
本機 …… 4
本機のお手入れ …… 144
本体 …… 4

マ行

マイクロホン端子 …… 25

マウス …… 49
マネジメント機能 …… 76
マルチポートリピータ …… 64
ミニDIN6ピン …… 28
ミニジャック …… 25
メモリ …… 90

ヤ行

ユーザパスワード …… 125
輸出 …… 9

ラ行

ライン出力端子 …… 25
ライン入力端子 …… 25
リソース …… 81
リソースの競合 …… 85
リフレッシュレート …… 50
リモートパワーオン機能 …… 40, 76
リンクケーブルの接続 …… 64
レーザ安全基準 …… 7
ローパワーデバイス …… 48
漏洩電流自主規制 …… 7

ワ行

割り込みレベル …… 142

PART

1

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

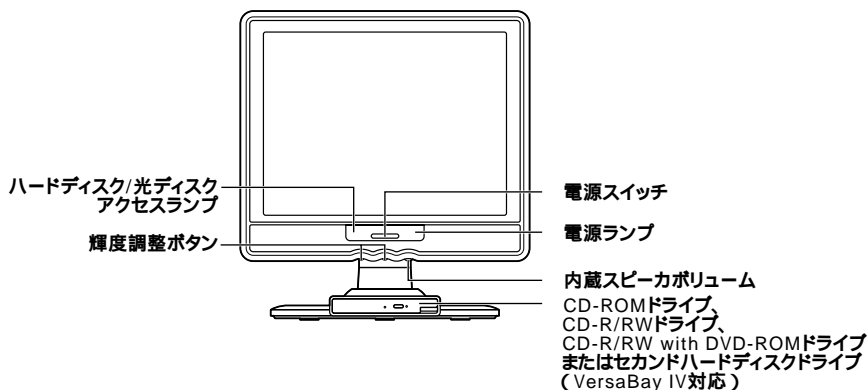
順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

各部の名称 22
電源 30
キーボード 41
マウス 49
ディスプレイ 50
ハードディスクドライブ 52
CD-ROMドライブ 56
CD-R/RWドライブ 58
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ 60
サウンド機能 63
LAN（ローカルエリアネットワーク）ボード 64
2.4GHzワイヤレス（無線）LAN機能 68
セキュリティ/マネジメント機能 73

各部の名称

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

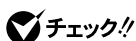
本体正面

①電源スイッチ（⏻）

本体の電源の状態を変更（入れる、スタンバイ/スタンバイからの復帰、休止状態/休止状態からの復帰）するスイッチです。→「電源」（P.30）

②電源ランプ（⏻）

電源の状態を表示するランプです。電源が入っているときとスタンバイ状態のときに点灯します。→「電源」（P.30）

③ハードディスク/光ディスクアクセスランプ(◎⬭)

IDEデバイスが読み書きしているときに点灯します。
工場出荷時に内蔵されているIDEデバイスは、ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)と、モデルによって異なりますが、CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブ(セカンダリマスタ)があります。
→「ハードディスクドライブ」(P.52)、「CD-ROMドライブ」(P.56)、「CD-R/RWドライブ」(P.58)、「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」(P.60)

チェック!! ハードディスク/光ディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容がこわれることがあります。

④CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはセカンドハードディスクドライブ(VersaBay IV対応)

CD-ROMや音楽CDのデータを読み出す装置です。
→「CD-ROMドライブ」(P.56)
さらにCD-R/RWドライブでは、CD-RまたはCD-RWに大容量のデータを書き込むことができます。
→「CD-R/RWドライブ」(P.58)
さらにCD-R/RW with DVD-ROMドライブでは、DVD-ROMのデータを読み出すことができます。
→「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」(P.60)
セカンドハードディスクドライブでは、アプリケーションソフトウェアで作成したデータなどを保管したり、システムのバックアップを取ることができます。→「ハードディスクドライブ」(P.52)

CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはセカンドハードディスクドライブはVersaBay IVに対応していますので、取り外して、他のファイルベイ用内蔵機器に交換することが簡単にできます。なお、セカンドハードディスクドライブを選択した場合、本体に添付して出荷されます。ご使用の際は、工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブなどを取り外してから実装してください。
→「PART2　周辺機器を利用する」「VersaBay IVを利用する」(P.102)

CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブおよびCD-R/RW with DVD-ROMドライブ拡大図

④-a ディスクトレイイジェクトボタン

トレイを出し入れするときに使います。

④-b CD-ROMアクセスランプ

CD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。

チェック!!
- CD-ROMアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因となります。
- CD-ROMアクセスランプ点灯中は、Versa Bay IVを取り外さないでください。Versa Bay IVを取り外す際は、電源OFF後に行ってください。

④-c CD-R/RWアクセスランプ

CD-R/RWドライブが動作しているときに点灯します。

チェック!!
- CD-R/RWアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。CD-RやCD-RWの内容がこわれたり、故障の原因となります。
- CD-R/RWアクセスランプ点灯中は、Versa Bay IVを取り外さないでください。Versa Bay IVを取り外す際は、電源OFF後に行ってください。

④-d CD-R/RW with DVD-ROMアクセスランプ

CD-R/RW with DVD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。

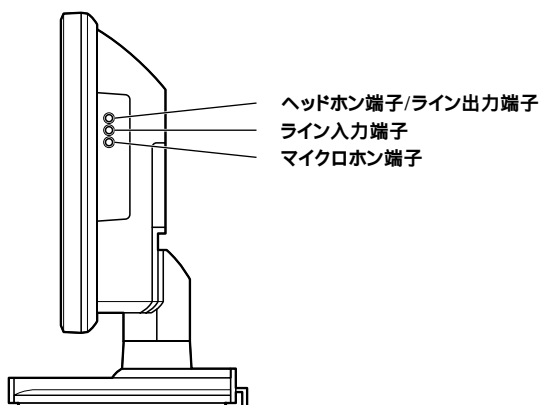
チェック!!
- CD-R/RW with DVD-ROMアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイイジェクトボタンを押さないでください。CD-RやCD-RWの内容がこわれたり、故障の原因になります。
- CD-R/RW with DVD-ROMアクセスランプ点灯中は、Versa Bay IVを取り外さないでください。Versa Bay IVを取り外す際は、電源OFF後に行ってください。

⑤輝度調整ボタン

液晶ディスプレイの輝度を調整するボタンです。左のボタンを押すと輝度が下がり、右のボタンを押すと輝度が上がります。

⑥内蔵スピーカボリューム

内蔵スピーカ、またはヘッドホン端子に接続したヘッドホンの音量を調節します。左に動かすと音量が小さくなり、右に動かすと大きくなります。→「サウンド機能」(P.63)

本体右側面

①ヘッドホン端子/ライン出力端子( )

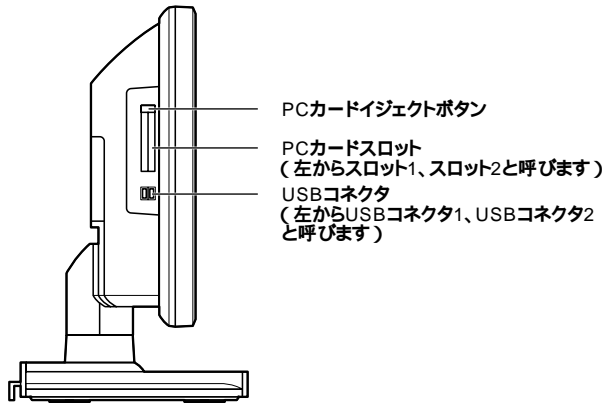
ミニプラグのステレオヘッドホンを接続します。また、市販のオーディオ機器などに音声信号を出力します。なお、ヘッドホンを接続すると内蔵スピーカからの音は出なくなります。ヘッドホンを耳にあてたままジャックの抜き差しをしないでください。

②ライン入力端子(ミニジャック)( )

市販のオーディオ機器から音声信号を入力します。

③マイクロホン端子(ミニジャック)( )

市販のマイクロホンを接続します。

本体左側面

①PCカードイジェクトボタン

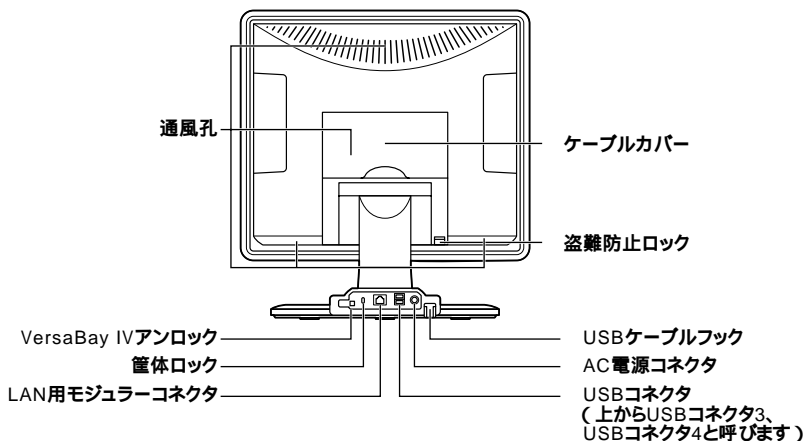
PCカードを取り出すときに使います。

②PCカードスロット（ ）

PCカードを接続します。
→「PART2　周辺機器を接続する」「PCカードを利用する」（P.97）

③USBコネクタ（ ）

USB機器を接続します。USB2.0/1.1機器に対応しています。
→「キーボード」（P.41）

本体背面

①AC電源コネクタ（⎓）

ACコンセントから本体に100Vの電源を供給するためのコネクタです。
添付のACアダプタを接続します。

②LAN用モジュラーコネクタ（品）

本機にはLANボードが内蔵されていますので、LAN（ローカルエリアネットワーク）に接続することができます。
→「LAN（ローカルエリアネットワーク）ボード」（P.64）

③筐体ロック（K）

ロック付き盗難防止ケーブルを取り付けます。
→「セキュリティ/マネジメント機能」（P.73）

④通風孔

本体内部の熱を逃すための通風孔です。ケーブルカバー内部にもあります。

⑤USBコネクタ（•⇆）

USB機器を接続します。USB2.0/1.1機器に対応しています。
→「キーボード」（P.41）

⑥USBケーブルフック

USB機器のケーブルが抜けるのを防止します。

⑦VersaBay Ⅳアンロック

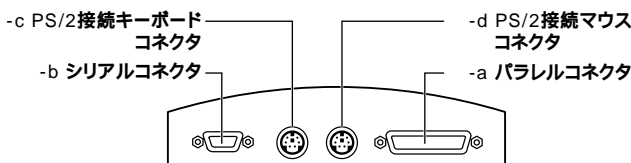
VersaBay Ⅳに内蔵されている機器を取り出すためのボタンです。筐体ロックと共用することで、本体およびVersaBay Ⅳに内蔵されている機器の盗難を防止します。
→「セキュリティ/マネジメント機能」(P.73)、「PART2　周辺機器を接続する」「VersaBay Ⅳを利用する」(P.102)

⑧盗難防止用ロック

本体に内蔵されているメモリや機器の盗難を防止します。
→「セキュリティ/マネジメント機能」(P.73)

⑨ケーブルカバー

接続されたケーブル機器のインタフェース部分を保護します。ケーブルを束ねる役割もあります。

ケーブルカバー内部拡大図

⑨-a　パラレルコネクタ()

プリンタなどの機器を接続します。

チェック!! パラレルコネクタでは、変換アダプタを利用した周辺機器の接続はできません。

⑨-b　シリアルコネクタ()

モデムやISDN TAなどの機器を接続します。

チェック!! シリアルコネクタでは、変換アダプタを利用した周辺機器の接続はできません。

⑨-c　PS/2接続キーボードコネクタ()

PS/2接続のキーボードのモデルでは、PS/2接続のキーボード(ミニDIN6ピン)を接続します。→「キーボード」(P.41)

⑨-d　PS/2接続マウスコネクタ()

PS/2 109キーボードのモデルでは、PS/2接続のマウス（ミニDIN6ピン）を接続します。テンキー付きPS/2小型キーボードのモデルでは、キーボードのケーブルがキーボード用とマウス用に分岐しているので、マウス用のケーブルを接続します。なお、PS/2接続のマウスはキーボードに接続します。→「マウス」(P.49)

電源

ここでは電源の入れ方と切り方や省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」「休止状態」の4つの状態があります。

●電源が切れている状態

Windows XP Homeを終了するなどして本体を使用していない状態です。

●電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

●スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリへ保存し、ハードディスクドライブなどのモータを停止する、ディスプレイを省電力の状態にするなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰するときは素早く元の状態に戻ります。

●休止状態

メモリの情報をすべてハードディスクドライブに保存した後で、本体の電源を切ります。もう一度電源を入れると、電源を切ったときと同じ状態で復元されます。本体の電源を切るため、「休止状態からの復帰」は「スタンバイからの復帰」より遅くなります。

電源の状態によるランプとディスプレイの表示は、次の通りです。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示
電源が入っている	緑色に点灯	表示される
電源が切れている	点灯しない	表示されない
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯	表示されない
休止状態	点灯しない	表示されない

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。詳しくは、後述の電源についての記載をご覧ください。

●電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す

●電源を切る

電源の操作方法
Windows XP Homeの「スタート」ボタン→「終了オプション」ボタンをクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックする
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

●スタンバイ状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows XP Homeの「スタート」ボタン→「終了オプション」ボタンをクリックし、「スタンバイ」ボタンをクリックする
「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の「電源設定」で設定する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

●スタンバイ状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

●休止状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の「電源設定」で設定する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

●休止状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)

電源を入れる

電源が切れている状態から電源を入れるには、必ず次の手順に従って正しく電源を入れてください。

チェック!! **電源を入れる操作は、電源が切れてから5秒以上の間隔をあけて行ってください。**

1 周辺機器の電源を入れる

2 本体の電源スイッチを押す

チェック!! **メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。512MBを1枚増設した場合、約6秒かかります。**

電源を切る

電源が入っている状態から電源を切るには、次の手順を行ってください。

チェック!! **電源投入後、Windows XP Homeの起動中やアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。マウスポインタが、砂時計表示されていないこと、およびハードディスクアクセスランプやディスクアクセスランプが点灯していないことを確認してから電源を切るようにしてください。**

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 「スタート」ボタン→「終了オプション」ボタンをクリック

3 「電源を切る」ボタンをクリック
本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了処理中に電源スイッチを押さないでください。

4 本体の電源が切れたことを確認したら、周辺機器の電源を切る

⚠注意

Windows XP Homeの動作中は、電源スイッチを押して電源を切らないでください。ソフトウェアなどのエラーでWindows XP Homeが操作できなくなってしまった場合は、『活用ガイド　ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」「電源を切ろうとしたが…」をご覧ください。

メモ

「電源オプション」では次の設定が行えます。
- 電源スイッチの変更（スリープ、休止状態、シャットダウン）
- 電源の自動操作（システムスタンバイ、システム休止状態）

参照 「電源オプション」の設定の変更→Windows XP Homeのヘルプ

スタンバイ/スタンバイからの復帰（電源の手動操作）

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによってスタンバイ状態にするには、「電源オプション」の設定を変更する必要があります。

参照 「電源オプション」の設定の変更→Windows XP Homeのヘルプ

チェック!! スタンバイ/スタンバイ状態から復帰する操作は、スリープランプが消灯してから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から手動でスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

■「スタート」ボタンによる方法

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」ボタンをクリック

2 「スタンバイ」をクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

■電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

⚠注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するためには、次の方法があります。なお、本機をキーボード/マウスによってスタンバイ状態から復帰するには、キーボード/マウスのプロパティの「電源の管理」タブにある「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」がチェックされている必要があります。

チェック!! USB接続のキーボード/マウスのモデルで「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」がチェックされている場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。

参照 「キーボード」または「マウス」の設定の変更→Windows XP Homeのヘルプ

■入力デバイスによる方法

チェック!! 入力デバイスによるスタンバイ状態からの復帰は、USB接続のキーボード/マウスで可能です。PS/2接続のキーボード/マウスでは復帰できません。

1 マウスを動かすか、キーボードのキーを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

■電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

⚠注意

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

●スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき
スタンバイ状態のときに次のことが起きると、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは失われます。

- 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
- 停電が起きたとき
- 電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

●スタンバイ状態からの復帰が保証されないとき
スタンバイ状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、またはスタンバイ状態からの復帰中に次のようなことを行うと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- CD-ROMを取り出したり、交換したとき

また、次のような状態でスタンバイ状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき

- プリンタへ出力中のとき
- 音声または動画を再生しているとき
- ハードディスクを読み書き中のとき
- CD-ROMなどを読み取り中のとき
- スタンバイ機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- スタンバイ機能に対応していない周辺機器を使用中のとき
- Windows XP Homeの起動処理中、終了処理中のとき
- 通信用ソフトウェアでLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

●その他の注意

- 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- SCSI PCカードを使用している場合、接続されている機器によっては正しくスタンバイ状態から復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態にしないでください。
- スタンバイ状態からの復帰を行った場合、ディスプレイに何も表示されない状態になることがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。

●スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法

次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- アプリケーションが動作しない
- スタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- USB接続のマウスまたはキーボード、電源スイッチを押してもスタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、スタンバイ機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

休止状態/休止状態からの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を長時間中断する場合は、休止状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによって休止状態にするには、「電源オプション」の設定を変更する必要があります。

参照 「電源オプション」の設定の変更→Windows XP Homeのヘルプ

休止状態にする

電源が入っている状態から手動で休止状態にするには、次の手順があります。

1 電源スイッチを押す
作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

> ⚠注意
>
> 電源スイッチを押して休止状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

休止状態から復帰する

休止状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、次の手順があります。

1 電源スイッチを押す
Windows XP Homeが起動し、前回休止状態機能を使用して電源を切ったときと同じ状態に復元されます。

休止状態機能を使用するときの注意

休止状態機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと休止状態にするときのデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

●休止状態からの復帰が保証されないとき

休止状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、または休止状態からの復帰中に次のようなことを行うと、休止状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- CD-ROMを取り出したり、交換したとき
- PCカードの抜き差しをするなど、本機の環境や構成を変更したとき
- 周辺機器の構成を変更（取り付け/取り外し）したとき

また、次のような状態で休止状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- システム変更作業（ドライバの設定やプリンタの追加）中のとき
- プリンタへ出力中のとき
- 音声または動画を再生しているとき
- ハードディスクを読み書き中のとき
- CD-ROMなどを読み取り中のとき
- 休止状態機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- 休止状態機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中のとき
- Windows XPの起動処理中、終了処理中のとき
- 通信用ソフトウェアでLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

●その他の注意

- 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときに休止状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- 休止状態からの復帰を行った場合、ディスプレイに何も表示されない状態になることがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
- SCSI PCカードを使用している場合、接続されている機器によっては正しく休止状態から復帰できない場合があります。このような場合は、休止状態にしないでください。

●休止状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法

次のような場合には、休止状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- アプリケーションが動作しない
- 休止状態にする前の内容に復帰できない

・ 電源スイッチを押しても休止状態から復帰できない
このような状態になるアプリケーションを使用中には、休止状態機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。
この場合、BIOSセットアップメニューの内容が工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

電源の自動操作

タイマ(「電源オプション」、Timer-NX)、LAN、回線からのアクセス(リモートパワーオン機能)によって、自動的に電源の操作を行うことができます。

チェック!! タイマ、LANの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイから復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

「電源オプション」

「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックし、「電源オプション」の「システムスタンバイ」を設定しておくと、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどがない場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態にすることができます。
また、「電源オプション」の「システム休止状態」を設定しておくと、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどがない場合、自動的に休止状態にすることができます。工場出荷時は、約20分でディスプレイの電源を、約30分でハードディスクドライブの電源を切るように設定されています。

参照 「電源オプション」の設定の変更→Windows XPのヘルプ

Timer-NX

「Timer-NX」のタイマ機能およびオフタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を切る、またはスタンバイ状態/休止状態から復帰することができます。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加(Windows XP Professional、Windows XP Home Editionの場合)」「Timer-NX」、Timer-NXのヘルプ

リモートパワーオン機能(LANによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を操作する機能です。

参照

- 「セキュリティ/マネジメント機能」「マネジメント機能」「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(P.76)
- 「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」「リモートパワーオン機能の設定」(P.66)

キーボード

ここでは、さまざまなキーボード、日本語入力、キーボードの使用上の注意について説明します。

参照 キーボード→Windowsのヘルプ

添付されるキーボードの種類

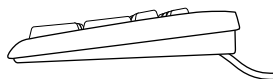
本機に添付されるキーボードには、接続するインタフェース、キー配列、収納方法などの違いにより、次の種類のキーボードがあります。

キーボードの種類・名称		インタフェース	キー配列	収納方法
PS/2接続のキーボード	PS/2 109キーボード	PS/2	109配列	横置き
	テンキー付きPS/2小型キーボード		109準拠	縦置き
USB接続のキーボード	USB109キーボード	USB	109配列	横置き
	テンキー付きUSB小型キーボード		109準拠	縦置き

収納方法

本機に添付されるキーボードには、キーボードを使わないときの収納方法として、縦置き収納型と横置き収納型の2つがあります。

■縦置き収納型

■横置き収納型

縦置き収納型は、キーボードを使わないときに、キーボードを縦置きにすることができるタイプ(スタンドタイプ)で、机上のスペースを広くすることができます。横置き収納型は、キーボードを使わないときも、横置きのままのタイプです。

使用上の注意

Nキーロールオーバ

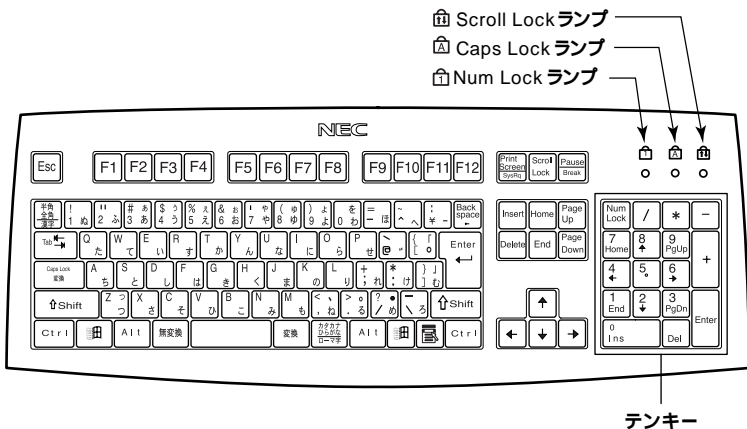
Nキーロールオーバとは、複数のキーを同時に押した場合に、最後に入力したキーが有効になる機能です。ただし、本機のキーボードは、疑似Nキーロールオーバのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや、有効にならないことがあります。

USB接続のキーボードの抜き差し

電源が入った状態でUSB接続のキーボードの抜き差しをする場合、USB接続のキーボードが取り外されたことや取り付けられたことを、本体が認識するためには数秒〜10秒程度必要です。瞬間的な抜き差しを繰り返すとキーボード入力ができなくなることがあります。
キーボード入力ができなくなってしまった場合は、USB接続のキーボードを正しく接続した後に、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、Windowsを再起動してください。

PS/2 109キーボード、USB109キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。

Esc　：エスケープキー

F1〜F12　：ファンクションキー

Print Screen SysRq　：プリントスクリーンキー

Scroll Lock　：スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.44)

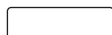
Pause Break　：ポーズ/ブレークキー

半角/全角 漢字　：半角/全角/漢字キー

Tab　：タブキー

Caps Lock 英数　：キャプスロック/英数キー
【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.44)

Shift　：シフトキー

Ctrl　：コントロールキー

（Windowsキー）　：Windowsキー

（アプリケーションキー）　：アプリケーションキー
Windowsキーとアプリケーションキーは Windowsによって機能を割り当てることができます。

【Alt】：オルトキー

【無変換】：無変換キー

【 】：スペースキー

【変換】：変換キー

【カタカナ ひらがな ローマ字】：カタカナひらがな/ローマ字キー

【Enter】：エンターキー

【Back space】：バックスペースキー

【Insert】：インサートキー

【Delete】：デリートキー

【Home】：ホームキー

【End】：エンドキー

【Page Up】：ページアップキー

【Page Down】：ページダウンキー

【↑】【↓】【→】【←】：カーソル移動キー

【Num Lock】：ニューメリックロックキー
一度押すとニューメリックロックし、Num Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」

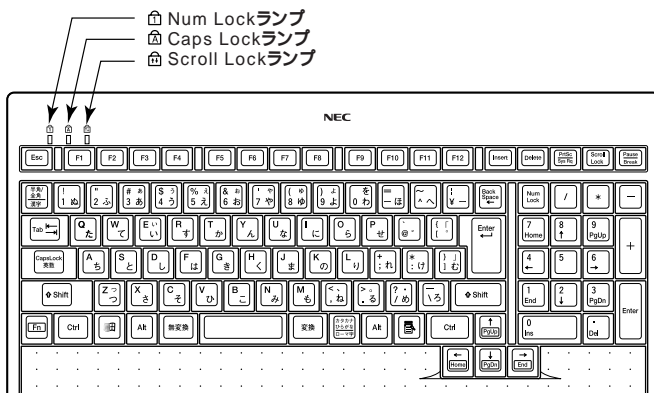
キーをロックする

【Caps Lock】【Num Lock】【Scroll Lock】は、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。
それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点灯します。

	ロックされているとき	ロックされていないとき
【Caps Lock】	英字が大文字で入力されます。	英字が小文字で入力されます。
【Num Lock】	キー前面に表示されている数字や記号が入力されます。	キー上面の文字が入力されます。
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。	

テンキー付きPS/2小型キーボード、テンキー付きUSB小型キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。

Esc ：エスケープキー

F1～F12 ：ファンクションキー

PrtSc SysRq ：プリントスクリーンキー

Scroll Lock ：スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.44)

Pause Break ：ポーズ/ブレークキー

半角/全角/漢字 ：半角/全角/漢字キー

Tab ：タブキー

Caps Lock 英数 ：キャプスロック/英数キー
【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」(P.44)

Shift ：シフトキー

Ctrl ：コントロールキー

：Windowsキー

：アプリケーション キー
Windowsキーとアプリケーションキーは Windowsによって機能を割り当てることができます。

Alt ：オルトキー

無変換 ：無変換キー

：スペースキー

変換 ：変換キー

カタカナ ひらがな ローマ字 ：カタカナひらがな/ローマ字キー

Enter ：エンターキー

Back space ：バックスペースキー

Insert ：インサートキー

Delete ：デリートキー

Home ：ホームキー

End ：エンドキー

PgUp ：ページアップキー

PgDn ：ページダウンキー

PgUp PgDn End Home ：
カーソル移動キー

Num Lock ：ニューメリックロックキー
一度押すとニューメリックロックし、Num Lockランプが点灯します。→「キーをロックする」（P.44）

Fn ：Fnキー→【Fn】を押しながらカーソル移動キーを押すと、【Page Up】【Page Down】【End】【Home】にすることができます。

キーをロックする

キーのロックについては、「キーをロックする」（P.44）をご覧ください。

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを使います。本機では各モデルごとに以下の日本語入力プログラムが使用できます。

日本語入力プログラム	アプリケーションレスモデル	Office XP Personalモデル および Office XP Professionalモデル
MS-IME2002	○	○

○：インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム

日本語入力のオン/オフ

日本語入力のオン/オフを切り替えるには次の方法があります。

- **キーボードの【半角/全角/漢字】を押す**

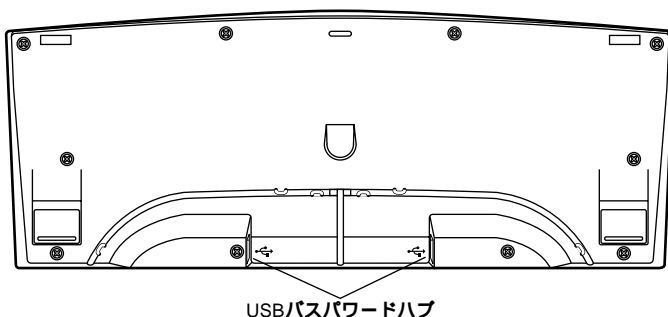
日本語変換の手順

日本語の変換にはさまざまな方法があります。詳しくは、MS-IMEのヘルプをご覧ください。

メモ

日本語変換のヘルプを表示するには、ツールバーのヘルプアイコンをクリックしてください。

USB接続のキーボードの使用上の注意

USB接続のキーボード(USB 109キーボード、テンキー付きUSB小型キーボード)の裏面には、USB1.1対応の機器を接続するためのハブが装備されています。1つは標準添付のスクロールボタン付きマウスを接続してください。ハブを2つ装備しているキーボードの残りの1つには別売のUSB機器を接続できますが、次の制限があります。

電源容量による接続の制限

- USB接続のキーボードのUSBハブは、USBバスパワードハブと呼ばれるハブで、電源が接続先から供給されて動作するハブです。
  USB機器には、接続先に要求する電源の容量によって、「ハイパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」の2種類に分類されます。USB接続のキーボードに接続できるUSB機器は「ローパワーデバイス」のものに限られます。

メモ ハイパワーデバイス、ローパワーデバイス

ハイパワーデバイス:接続先に500mA以下の電源を要求するUSB機器。
ローパワーデバイス:接続先に100mA以下の電源を要求するUSB機器。

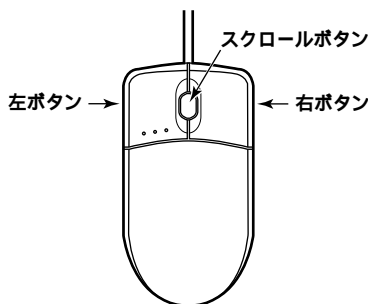
- USBの仕様では、USB機器は最大5段まで縦列接続が可能ですが、実際のシステム運用上では2段までの縦列接続でご使用になってください。
- 本ハブにUSB2.0対応機器を接続する場合、USB転送速度が最大12Mbpsに制限されます。

マウス

ここでは、マウスの使用方法について説明します。

参照 マウス→Windowsのヘルプ

マウスについて

本機に添付されるマウスは、スクロールボタン付きマウスです。

マウスのクリックとは、マウスのボタンを押して離す操作です。特に指定がない場合は左ボタンを使います。

スクロールボタン付きマウスのスクロールボタンの使い方

通常はスクロールボタンを上に押し続けたり、手前へ引き続けることで上下にスクロールします。
また、スクロールボタンをクリックしたり、押し続けたときにスクロールアイコンが表示されます。その場合は、三角マークの方向にマウスを動かすと画面を上下にスクロールさせることができます。スクロールボタンを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

チェック!! スクロールボタンはアプリケーションによっては使用できない場合があります。

ディスプレイ

本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使いの用途に応じた解像度や表示色に切り換えて使用できます。

参照 ディスプレイ→Windowsのヘルプ

使用上の注意

リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定値はセットアップが完了したときに、最も適した値に自動的に設定されます。通常ご使用になるときは設定を変更しないでください。機種によってはリフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定を「画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを設定すると画面が乱れることがあります。

表示能力

本機では、表示する解像度と表示色は、以下の水平走査周波数・垂直走査周波数で表示可能となります。

解像度 [ドット]	表示色	水平走査周波数 [KHz]	垂直走査周波数 [Hz]	本体の液晶ディスプレイ
640×480 ※	256色 ※ 65,536色 1,677万色	31.5	60	○
800×600	256色 ※ 65,536色 1,677万色	37.9	60	○
1,024×768	256色 ※ 65,536色 1,677万色	48.4	60	○

※Windows XP Homeでは640×480および256色の表示には設定の変更が必要

ディスプレイの省電力機能

本機は、VESA(Video Electronics Standards Association)で定義されているディスプレイの省電力モード(DPMS:Display Management System)に対応しています。
工場出荷時の設定は、マウスやキーボードからの入力がない状態が続くと、約20分でディスプレイの電源を省電力モードにするように設定されています。

参照 **ディスプレイの省電力機能→Windowsのヘルプ**

ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、プログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。振動や衝撃などが加わらないよう、取り扱いにご注意ください。コンピュータの使用中に、ハードディスクドライブで障害が発生することもありますが、軽い障害であればエラーチェックプログラムを使って修復できる場合があります。また、大切なデータを保護するため、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

使用上の注意

⚠ 注　意

ハードディスクドライブは、たいへん精密な機械です。次のことに注意してください。

- 温度、湿度条件を守ってください。
  温度10℃〜35℃、湿度20%〜80%(ただし結露しないこと)
- ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。
- 電源が入っているときは、本体に衝撃を加えたり、持ち運んだりしないでください。
- 電源を切るときは、Windowsの「スタート」ボタンから電源を切ってください。正常な終了手順に従わずに電源を切ると、ディスク上のデータがこわれてしまうことがあります。
- 電源を切って本体を運ぶときでも、できるだけ慎重に扱ってください。

バックアップはこまめにとる

本機に内蔵されているハードディスクドライブは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしか空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。
また、温度、湿度条件を守れない環境での使用が続いた場合は、ハードディスクドライブ内部で使用している部品から極微量なガスが発生します。このガスは、磁気ヘッドに付着したり、二次的にマイクロダストを発生し、磁気ヘッドの姿勢を乱すなど故障の原因となることがあります。
ハードディスクドライブが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまい、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。本機にはハードディスクドライブをバックアップするアプリケーション「Masty Data Backup」が添付されています。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加(Windows XP Professional、Windows XP Home Editionの場合)」の「Masty Data Backup」、Windowsのヘルプ

アプリケーションで作成したデータは、アプリケーションによっては自動的に保存場所が決められている場合がありますので、バックアップをとる場合はアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」、または「スキップセクタ」といいます。パソコンは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、Windowsの「チェックディスク」などを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。なお、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数※が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
20Gバイト	20,000,000,000バイト以上
40Gバイト	40,000,000,000バイト以上

※表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。

メモ

ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト=1,000,000バイト、1Gバイト=1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値を示してあります。OSによっては、1Mバイト=1,048,576バイトでMバイト値を、1Gバイト=1,073,741,824バイトでGバイト値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。

ハードディスクドライブの動作音について

ハードディスクドライブの動作中、本体から小さな音がする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブ番号の割り当て

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」または「ドライブ文字」といいます。
工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。
なお、領域を変更する場合は、システム管理者など、ディスクの管理に詳しいユーザの元で行ってください。

チェック!! 「再セットアップ用CD-ROM」が添付されていないモデルをご利用の場合、「ディスクの管理」ではドライブ番号の割り当てられていない領域が存在しますが、削除しないでください。これは再セットアップする場合に必要な「再セットアップ領域」であるため、ドライブ番号を割り当てていません。

参照 ディスクの管理→Windowsのヘルプ

ドライブ番号	ドライブの種類
Cドライブ	ハードディスクドライブ （プライマリマスタ、第1パーティション、10GB、NTFS）
Dドライブ	ハードディスクドライブ （プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS）
Eドライブ	CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブ（セカンダリマスタ）

※セカンドハードディスクドライブ(VersaBay IV)の取り外し/取り付けによってドライブ番号が変わることがあります。

エラーチェックの操作手順

1. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をダブルクリック
2. エラーチェックするハードディスクのアイコンをクリック
3. 「ファイル」→「プロパティ」をクリック
4. 「ツール」タブをクリック
5. 「チェックする」ボタンをクリック
6. 「チェックディスクのオプション」を選択する

メモ

「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」にチェックを付けると、ディスクチェック中に発見したエラーを自動的に修復します。「不良セクタをスキャン(走査)し、回復する」にチェックを付けると、ディスクの表面検査を行い、不良セクタを検出したときは使用しないようにします。

7. 「開始」ボタンをクリック

チェック!! 定期的にエラーチェックを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

CD-ROMドライブ

CD-ROMはデータやプログラムが書き込まれているCDです。本機では音楽用のCDを再生することもできます。なお、CDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないようにしてください。なお、CD-ROMドライブはVersaBay IVに対応しているので、別売のVersaBay IV対応機器と交換可能です。

⚠警告

CD-ROM、CD-R、CD-RWは、対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカを破損したりする原因となります。またCD-R、CD-RWがこわれて書き込むことができなくなる場合があります。

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-ROMドライブでは、ISO9660に準拠したCD、または下記の表中のCDを再生・表示することができます。CD TEXTのテキストデータ部は、読み出せません。また、コピーコントロールCDなど、一部のISO9660に準拠していないディスクは再生できない場合があります。

■CDのサイズ

CDのサイズ	
8センチ	12センチ
○	○

■CDの規格

規　格	概　要
CD-DA(CD-Digital Audio)	一般の音楽CD。プログラム用のCD-ROMでは音楽トラックの部分のこと
CD-ROM(CD-Read Only Memory)	パソコンで利用するための情報が入ったCD
CD-ROM XA (CD-ROM eXtended Architecture)	CD-Iで提案されたマルチメディアシステムを、既存のパーソナルコンピュータでも実現できるようにした規格
CD Extra(CD PLUS)	一般の音楽CDに文字や画像などを記録できるようにした規格
Photo CD　マルチセッション	写真を最大100枚まで記録できる追記型のCD
CD-R(CD-Recordable)	書き込みができるCD。マルチセッション対応の場合は、複数回に分けての書き込みも可能
CD-RW(CD-ReWritable)	書き込み/書き換えができるCD

CD-ROMドライブ使用上の注意

CD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによって、データが正しく読み取れなくなるおそれがあります。

非常時のディスクの取り出し

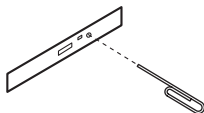
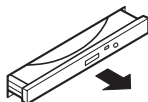
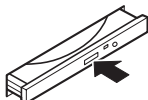
停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

チェック!! 本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

1 細くて丈夫な針金を用意する

ペーパークリップを伸ばしたものが使えます。

2 非常時ディスク取り出し穴(直径約1.5mm)に針金を差し込み、強く押す

ディスクトレイが15mmほど飛び出します。

3 ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す

4 ディスクトレイをドライブの中に押し込む

CD-R/RWドライブ

CD-R/RW(Compact Disc Recordable/Compact Disc ReWritable)ドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-RおよびCD-RWへ大量のデータやプログラムを記録することができます。なお、CDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないようにしてください。なお、CD-R/RWドライブはVersaBay IVに対応しているので、別売のVersaBay IV対応機器と交換可能です。

> ⚠警告
>
> **CD-ROM、CD-R、CD-RWは、対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。また、CD-R、CD-RWがこわれて書き込むことができなくなる場合があります。**

再生できるCDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-R/RWドライブでは、ISO9660に準拠したCDを再生・表示することができます。CD TEXTのテキストデータ部は、読み出せません。再生できるCDについては、「CD-ROMドライブ」「再生できるCDの種類」(P.56)をご覧ください。

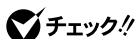
CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット

本機に内蔵されているCD-R/RWドライブは、CD-ROMドライブの機能に加えて、CD-Rへの書き込み機能とCD-RWへの書き換え機能を加えたものです。

使用できるディスク

CD-RおよびCD-RWについては、ISO9660、Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠したディスクをご利用ください。また、本機ではISO9660、Orange Book Part3 Volume2に準拠したHigh-Speed CD-RWディスクへの書き込み/書き換えおよびフォーマット(4倍速/8倍速に対応)もできます。
書き込みできる容量は、使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加(Windows XP Professional、Windows XP Home Editionの場合)」の「RecordNow DX」または「DLA」をご覧ください。

使用するソフトウェア

本機のCD-R/RWドライブを使って、CD-Rへの書き込み、CD-RWへのフォーマット/書き換えをするには、「RecordNow DX」または「DLA」が必要です。使用方法については『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加(Windows XP Professional、Windows XP Home Editionの場合)」の「RecordNow DX」または「DLA」をご覧ください。

チェック!!

- 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のCD-ROMドライブ、CD-Rドライブ、CD-R/RWドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項に従ってください。
- コピーコントロールCDなど、一部のディスクでは音楽CDを作成できない場合があります。

CD-R/RWドライブ使用上の注意

CD-R/RWドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによって、データが正しく読み取れなくなるおそれがあります。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、強制的に取り出すことができます。
非常時のディスクの取り出し手順については、「CD-ROMドライブ」「非常時のディスクの取り出し」(P.57)をご覧ください。

CD-R/RW with DVD-ROMドライブ

CD-R/RW with DVD-ROMドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-R/RWドライブの機能に加えて、DVD（Digital Versatile Disc）に記録された音楽や動画映像を再生することもできます。なお、CDやDVDにラベルを貼ったり、信号面（文字などが印刷されていない面）に傷を付けないようにしてください。なお、CD-R/RW with DVD-ROMドライブはVersaBay IVに対応しているので、別売のVersaBay IV対応機器と交換可能です。

⚠警告

CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM、DVD-Rは、対応プレーヤ以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったりスピーカがこわれたりする原因となります。また、ディスクがこわれて書き込むことができなくなる場合があります。

再生できるCDおよびDVDの種類

本機に標準で内蔵されているCD-R/RW with DVD-ROMドライブでは、ISO9660に準拠したCDおよびDVDを再生・表示することができます。なお、再生できるCDについては「CD-ROMドライブ」「再生できるCDの種類」（P.56）をご覧ください。本機のCD-R/RW with DVD-ROMドライブを使ってDVDを再生するには、「Jet-Audio Player」をご利用ください。使用方法については、『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加（Windows XP Professional、Windows XP Home Editionの場合）」の「Jet-Audio Player」をご覧ください。

チェック!!

- DVD-Videoを見る場合は、解像度を1,024×768ドット以下に設定してください。
- CD TEXTのテキストデータ部は、読み出せません。
- 本機では、日本国内向け（リージョン2）および地域制限なし（リージョン0（ゼロ））以外のリージョンコードのDVDは再生できません。

■DVDのサイズ

DVDのサイズ	
8センチ	12センチ
○	○

■DVDの容量

DVDの容量			
DVD-5	DVD-9	DVD-10	DVD-18
片面一層 （4.7GB）	片面二層 （8.5GB）	両面一層 （8.5GB）	両面二層 （17GB）

■DVDの規格

規　格	概　要
DVD-ROM（DVD-Read Only Memory）	パソコンで利用するための情報が入ったDVD
DVD-Video	MPEG2という圧縮方式を用いて記録された動画用のDVD-ROM
DVD-Audio	音楽用のDVD-ROM。CD-DAよりも広いレンジで音声が収録されています。
DVD-R （DVD-Recordable）	書き込みができるDVD　※

※専用のドライブとライティングソフトウェアがなければ書き込みはできません。

CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット

本機に内蔵されているCD-R/RW with DVD-ROMドライブは、CD-R/RWドライブの機能に加えてDVD-ROMの再生機能を加えたものです。使用できるCD-R、CD-RWおよびソフトウェアについては、「CD-R/RWドライブ」「CD-RおよびCD-RWへの書き込みおよびCD-RWのフォーマット」(P.58)をご覧ください。また、本機ではISO9660、Orange Book Part3 Volume2に準拠したHigh-Speed CD-RWディスクへの書き込み/書き換えおよびフォーマット(4倍速/8倍速に対応)もできます。なお、コピーコントロールCDなど、一部のディスクでは音楽CDを作成できない場合があります。

CD-R/RW with DVD-ROMドライブ使用上の注意

CD-R/RW with DVD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによって、データが正しく読み取れなくなるおそれがあります。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、強制的に取り出すことができます。
非常時のディスクの取り出し手順については、「CD-ROMドライブ」「非常時のディスクの取り出し」(P.57)をご覧ください。

サウンド機能

本機には音声を録音、再生するためのサウンド機能が内蔵されています。音声は内蔵スピーカまたは外部のオーディオ機器から再生することができます。

参照 ボリュームコントロールのヘルプ

音量の調節

音量の調節には内蔵スピーカボリュームまたは「ボリュームコントロール」による方法があります。どちらかの方法で音量が最小になっていると、音が出ないので注意してください。

チェック!! メニューバーの「オプション」→「トーン調整」を選択すると「トーン」ボタンがボリュームコントロール画面に追加表示され、それをクリックするとトーン調整画面で調整が行えます。

LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード

LANボードが標準で内蔵されているモデルでは、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することにより、離れた所にあるコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここではLANへの接続手順を簡単に説明します。

LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続

接続前の確認

LANボードが標準で内蔵されているモデルでは、100BASE-TXまたは10BASE-Tに対応したLANに接続することができます。本機をネットワークに接続するには、別売のマルチポートリピータ(ハブ)と、別売の専用ケーブル(リンクケーブル)が必要です。100BASE-TXで使用するためには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要です。

参照 「PART4　付録」「機能一覧」(P.138)

接続方法

リンクケーブルの接続方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。

チェック!!

- 本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、リンクケーブルの接続を行ってください。
- 搭載されているLANボードは、接続先の機器との通信速度(100Mbps/10Mbps)を自動検出して最適な通信モードで接続するオートネゴシエーション機能をサポートしています。なお、セットアップが完了したときに、オートネゴシエーション機能は有効に設定されています。接続先の機器がオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、「ネットワークのプロパティ」で通信モードを接続先の機器の設定に合わせるか、接続先の機器の通信モードを半二重(Half Duplex)に設定してください。

LANの設定

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については、Windows XPのヘルプの中にあるネットワーク関連の項目をご覧ください。

ネットワークソフトウェアをセットアップする

チェック!! 工場出荷時は、ネットワークプロトコル(TCP/IP)が設定されています。

1. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をクリック
2. 「その他」の「マイ ネットワーク」をクリック
3. 「ネットワークタスク」の「ネットワーク接続を表示する」をクリック
4. 「ローカル エリア接続」をクリック
5. 「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリック
ここで「サービス」、「プロトコル」、「クライアント」をセットアップできます。必要な構成要素を追加してください。

メモ
必要な構成要素がわからない場合は、システム管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

6. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をクリック
7. 「システムのタスク」の「システム情報を表示する」をクリック
8. 「コンピュータ名」タブをクリック
9. 「変更」ボタンをクリック

10 「コンピュータ名の変更」の画面が表示されたら、「コンピュータ名」、「ワークグループ」に必要な情報を入力する

メモ

コンピュータ名などがわからない場合は、システム管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

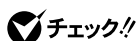
11 「OK」ボタンをクリック

12 再起動を促すメッセージが表示された場合はコンピュータを再起動する

以上で完了です。

リモートパワーオン機能の設定

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能については次の表の通りです。また、別途モジュールが必要になる場合がありますので、「セキュリティ/マネジメント機能」の「マネジメント機能」(P.76)をご覧ください。

リモートパワーオン	電源が切れている状態から電源を入れる	×
	スタンバイ状態から復帰する	○
	休止状態から復帰する	○

チェック!! 前回のシステム終了(スタンバイ状態にする、休止状態にする)が正常に行われなかった場合、リモートパワーオンを行うことはできません。一度電源スイッチを押してWindows XPを起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。

スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。なお、設定の際は管理者(Administrator権限を持ったユーザ)が行ってください。

1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をクリック

2 「その他」の「マイ ネットワーク」をクリック

3 「ネットワークタスク」の「ネットワーク接続を表示する」をクリック

4 「ローカル エリア接続」をクリック

5 「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリック

6 「構成」ボタンをクリック

7 「電源の管理」タブをクリック

8 次の3つの項目にチェックを付ける

- 「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」
- 「管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

9 「OK」ボタンをクリック

10 「ネットワーク接続」を閉じる

以上で完了です。

2.4GHzワイヤレス（無線）LAN機能が内蔵されているモデルでは、ワイヤレス（無線）LANによって、離れているコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここでは、2.4GHzワイヤレス（無線）LANへの接続を簡単に説明します。

2.4GHzワイヤレスLAN使用上の注意

- 通信速度・通信距離は、ワイヤレスLAN対応機器や電波環境・障害物・設置環境などの周囲条件によって異なります。
- 電波の性質上、通信距離が離れるにしたがって通信速度が低下する傾向があります。より快適にお使いいただくために、ワイヤレスLAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。
- 電子レンジを使用中に、2.4GHzワイヤレスLAN対応機器の通信速度、通信距離が低下する場合があります。2.4GHzワイヤレスLAN対応機器と電子レンジは離して使用することをおすすめします。
- 2.4GHzワイヤレスLAN対応機器とBluetooth™対応機器を同時に使用された場合、それぞれの機器の通信速度や通信距離が低下する場合があります。2.4GHzワイヤレスLAN対応機器とBluetooth™対応機器はいずれかをオフにするか、離して使用することをおすすめします。
- 2.4GHzワイヤレスLAN機能を使用したネットワークへの接続には、別売の2.4GHz無線LANアクセスポイントなどが必要です。
- 2.4GHzワイヤレスLANでは、暗号キーを設定することにより、無線区間内での漏洩・傍受を防ぐことが可能です（将来、暗号解読技術の向上により、暗号化では意図的な解読に対し十分に対応できない可能性があります）。

2.4GHzワイヤレスLAN製品との接続

本製品と接続できる製品は、以下の通りです（2002年5月現在）。

■2.4GHz 無線LAN アクセスポイント

- PK-WL002H無線LANアクセスポイント（11Mbps）
- PK-WL003無線LANアクセスポイントN
- PK-WL005無線LANアクセスポイントE
- PK-WL007無線LANアクセスポイントS
- PC-WL20R1 Aterm WL20R

- PC-WB20R1 Aterm WB20R
- PC-WL30A1 Aterm WL30A
- PC-WL50T1 Aterm WL50T
- PC-WB50T1 Aterm WB50T
- PA-WB55TL1 Aterm WB55TL
- PA-WB45RL1 Aterm WB45RL
- PA-WB65DSL1 Aterm WB65DSL
- PA-WBR75H Aterm WBR75H

■2.4GHzワイヤレスLAN周辺機器
- PK-WL001H無線LANカード(11Mbps)
- PK-WL001無線LANカード(11Mbps)
- PK-WL004無線LANUSBボックス(11Mbps)
- PK-WL006無線LAN(11Mbps)カードE
- PR-WL-11無線LANプリンタボード
- PR-WL-01無線LANプリンタアダプタ

■2.4GHzワイヤレスLANモデル
- 2001年7月以降出荷のLaVie・VersaProの2.4GHzワイヤレスLANモデル
- 2001年11月以降出荷のVALUESTARの2.4GHzワイヤレスLANモデル

その他の製品については、NECのホームページ「121ware.com」をご覧ください。

http://121ware.com/

2.4GHzワイヤレスLANの設定

ここでは、2.4GHzワイヤレス(無線)LANを持った他のパソコンまたはアクセスポイントに接続するために必要なセットアップ方法を簡単に説明します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」をクリック

2 「ワイヤレスネットワーク接続(ORiNOCO Wireless LAN Mini PCI...)」を右クリックして、プロパティをクリック

3 「ワイヤレスネットワーク」タブをクリック

チェック!! アクセスポイントが利用できるネットワークの一覧に表示されない場合は、一度アクセスポイントの電源をオフにし、再度電源をオンにしてから「最新の情報に更新」ボタンをクリックしてください。

4 「利用できるネットワーク」から接続する親機(またはパソコン)を選択し、「構成」ボタンをクリック

5 セキュリティの設定を行う

セキュリティの設定を行うことで、無線ネットワークの外部からの不正なアクセスを防止することができます。

セキュリティの設定を行わない場合は、このあと、手順8に進んでください。

セキュリティの設定を行う場合、親機で暗号キーが設定されている場合は、「ネットワークキー」に暗号キーを入力してください。また、パソコン同士で接続する場合は、両方のパソコンで同じネットワークキーを設定してください。

6 パソコン同士で接続する場合は、「これはコンピュータ相互(adhoc)のネットワークで、ワイヤレスアクセスポイントを使用しない」にチェックを付ける

レジデンシャルゲートウェイ、無線LANアクセスポイントとの接続の際はこの手順は必要ありません。

7 「OK」ボタンをクリック

「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」の画面の「優先するネットワーク」に選択した機器が追加されます。

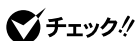
8 「OK」ボタンをクリック

しばらくすると、画面右下の通知領域に「ワイヤレスネットワーク接続に接続しました」と表示されます。

9 接続を確認する

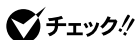
WARPSTAR（ベース）を使ってダイヤルアップ接続する

別売のダイヤルアップ機能を内蔵したWARPSTAR（ベース）を使用してインターネットへダイヤルアップ接続するには、WARPSTAR（ベース）に添付されているCD-ROMから「WARPSTARらくらくアシスタント」をインストールする必要があります。設定は以下の手順で行ってください。

1 WARPSTAR（ベース）に合わせて、2.4GHzワイヤレスLANの設定を行う

チェック!!
- 一覧を更新してもWARPSTAR（ベース）のネットワーク名が表示されない場合は、一度WARPSTAR（ベース）の電源をオフにし再びオンにした後で、WARPSTAR（ベース）前面ランプの点滅が終わるのを待ってから、再度「更新」ボタンをクリックしてください。
- WARPSTAR（ベース）の出荷時のネットワーク名は、「WARPSTAR-XXXXXX」（XXXXXXはWARPSTAR（ベース）の背面に記載されている10BASE-TもしくはWAN/PCのMACアドレス下6桁）です。

2 WARPSTAR（ベース）との接続を確認する

3 WARPSTAR（ベース）に添付されているCD-ROMから「WARPSTARらくらくアシスタント」をインストールする

インストール方法は、WARPSTAR（ベース）の取扱説明書の「WARPSTARベースの100BASE-TX/10BASE-Tポートにパソコンを接続する場合」にしたがって行ってください（ただし、Ethernetケーブルを接続する必要はありません）。

チェック!!
らくらくアシスタントと同時にインストールされる「サテライトマネージャ」は、WARPSTARサテライト（WL11C（A））/（WL11U）専用ですので、内蔵の2.4GHzワイヤレスLANではご使用になれません。

4 WARPSTAR導入ウィザードで設定を行う

「WARPSTARらくらくアシスタント」のインストール後、WARPSTAR導入ウィザードが起動します。
以下の点に注意し、ウィザードにしたがって設定を行ってください。

- 「お使いのパソコンとWARPSTARの接続方法」では、「Ethernetケーブルで接続」もしくは、「100BASE-TX/10BASE-Tケーブルで接続」を選択してください。「ワイヤレスLAN(カード)」や「ワイヤレスLAN(USBボックス)」は、WARPSTARサテライト(WL11C(A))/(WL11U)専用です。
- 「WARPSTAR(ベース)を接続しているLANカード/アダプタの選択」では、「ORiNOCO Wireless LAN Mini PCI Card」を選択してください。

5 インターネットの接続設定を行う

WARPSTAR(ベース)の取扱説明書の「インターネットの接続設定をする」にしたがってください。

6 インターネットに接続する

WARPSTAR(ベース)の取扱説明書の「インターネットに接続する」にしたがってください。

WARPSTARシリーズに関する最新情報は、AtermStationをご覧ください。
http://aterm.cplaza.ne.jp/(2002年5月現在)

セキュリティ/マネジメント機能

本機は、システム管理者が効率よく本機をセキュリティ/マネジメントするための機能を備えています。

セキュリティ/マネジメント機能の概要

システム管理者が、効率よくパソコンをセキュリティ/マネジメントするためには、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- 機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウィルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むことができないようにする(ロックする)。(I/Oロック)
- 本体の盗難やパスワードの解除を防止する。(筐体ロック)
- システム管理者向けと一般のユーザ向けの利用環境を設定し、使用できる機能を制限する。(CyberAccess)
- システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。(リモートパワーオン/オフ機能)
- ソフトウェアのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)、ソフトウェア構成情報を管理する。(Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions))

本機には、このような手段・機能を利用するために、次のような機能を備えています。

セキュリティ機能

パスワードの設定

スーパバイザパスワード/ユーザパスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。BIOSセットアップメニューでそれぞれのパスワードを設定し、「Password On Boot」を「Enabled」に設定してください。

チェック!! 下記の状態で、管理者側のパソコンからリモートパワーオン機能で本機を起動するには、BIOSセットアップメニューの「Security」の「Network Boot Setting」の「BIOS LOCK」を「Disabled」にしなければなりません。

- スーパバイザパスワード、ユーザパスワードが設定され、BIOSセットアップメニューの「Security」の「Password On Boot」が「Enabled」に設定されている場合
- 本機に指紋認証ユニットが接続され、指紋認証ユニットのBIOS LOCKが設定されている場合

ファイアウォール

別売のPCGATE Ver1.1により、インターネットを介した不正アクセスを防ぎます。設定作業や監視を管理者PCからクライアントPCに対して集中的に一括して行えます。

I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/O(シリアルポート、パラレルポートなど)を利用できないようにする機能です。この機能を利用することで、部外者のデータアクセスを防止したり、システムに影響を及ぼすアプリケーションをインストールすることを防止することができます。

参照 「PART3　システム設定」「Securityの設定」の「I/Oロック」(P.129)

ハードディスクパスワード機能

本機で使用するハードディスクドライブにパスワードを設定することにより、本機以外のパーソナルコンピュータでハードディスクドライブの不正使用を防止することができます。万一、ハードディスクドライブが盗難にあって、他のパーソナルコンピュータに設置された場合でも、パスワードが必要となるため、重要なデータの漏洩を防ぐことができます。

参照 ハードディスクパスワードの設定→「PART3　システム設定」「Securityの設定」(P.125)

筐体ロック

筐体ロック(セキュリティケーブル2(PK-SC/CA02))を使用することで、本体の盗難やスーパバイザ/ユーザパスワード解除の防止に役立てることができます。筐体ロックはロック付き盗難防止ケーブルを使用することができます。1つは南京錠とワイヤーチェーンを利用することができ、もう1つはキーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しており、以下の別売のオプションを利用することができます。なお、筐体ロックはVersaBay IVアンロックと共通になっていますので、VersaBay IVの盗難も防止することができます。

ウイルス検出・駆除

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うには「Norton AntiVirus」を使用します。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加(Windows XP Professional、Windows XP Home Editionの場合)」の「Norton AntiVirus」

エンドユーザ管理

本機に添付されているCyberAccessを使用することで、使用できるアプリケーションやシステムに影響を与える動作を制限することができます。また、別売のCyberAccess Ver3.1により、管理者PCから一括して設定、変更することができます。

参照 『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加(Windows XP Professional、Windows XP Home Editionの場合)」の「CyberAccess」

マネジメント機能

リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。
本体およびLANボードがリモートパワーオン機能に対応しているシステムでは、本体がスタンバイ状態または休止状態のときも、リモートパワーオン用の専用コントローラは通電されています。管理パソコンはIntel® LANDesk® Client Manager 6(with NEC Extensions)からのリモートパワーオンのコマンド指示により、パワーオンを指示する特殊なパケットを離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコンの専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理パソコンから、LAN接続された本機をスタンバイ状態から復帰または休止状態から復帰させることができます。
リモートパワーオン機能を利用するためには、次のソフトウェア、設定、または「121ware.com」からモジュールのダウンロードが必要になります。

- 管理パソコン
  別売の「DMITOOL Ver8.2(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」など

- 本機
  「リモートパワーオン機能の設定」(P.66)

チェック!! 「DMITOOL Ver8.2(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」を使用する場合、次のモジュールが必要となります。

次のアドレスから「レスキュー」→「ダウンロード」→「カテゴリ検索」の順にクリックし、「カテゴリ」に「運用管理関連」を指定して、ダウンロードしてください。

http://121ware.com/

〈Windows XP〉
「DMITOOL Ver8.xに含まれている Intel® LANDesk® Client Manager 6.0(with NEC Extensions)Windows® XP対応アップデートモジュール(コンプリート版用)」

〈Windows 2000/Windows NT 4.0/Windows Me/Windows 98SE〉
「DMITOOL Ver8.x(コンプリート版付)用アップデートモジュール」

参照
- 「Intel LANDesk Client Manager 6(with NEC Extensions)」→『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加(Windows XP Professional、Windows XP Home Editionの場合)」
- リモートパワーオンの設定→「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」「リモートパワーオン機能の設定」(P.66)

ネットワークブート機能

OSのセットアップ、BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)、BIOS設定変更の操作を管理者側のパソコンから複数のクライアントPCに対して一括でリモート操作することができます。PXE(Preboot eXecution Enviroment)に準拠した運用管理ソフトウェアが必要です。

参照　「PART3　システム設定」の「Advancedの設定」(P.121)

クライアントモニタリング

Intel® LANDesk® Client Manager 6(with NEC Extensions)により、離れたところにあるマシンから本機の構成情報を知ることができます。また、システム管理者が別売のPCMANAGER Ver4.0などを利用して一括でクライアントPCの構成情報を確認できます。

参照　『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加(Windows XP Professional、Windows XP Home Editionの場合)」の「Intel LANDesk Client Manager 6(with NEC Extensions)」

■資産管理

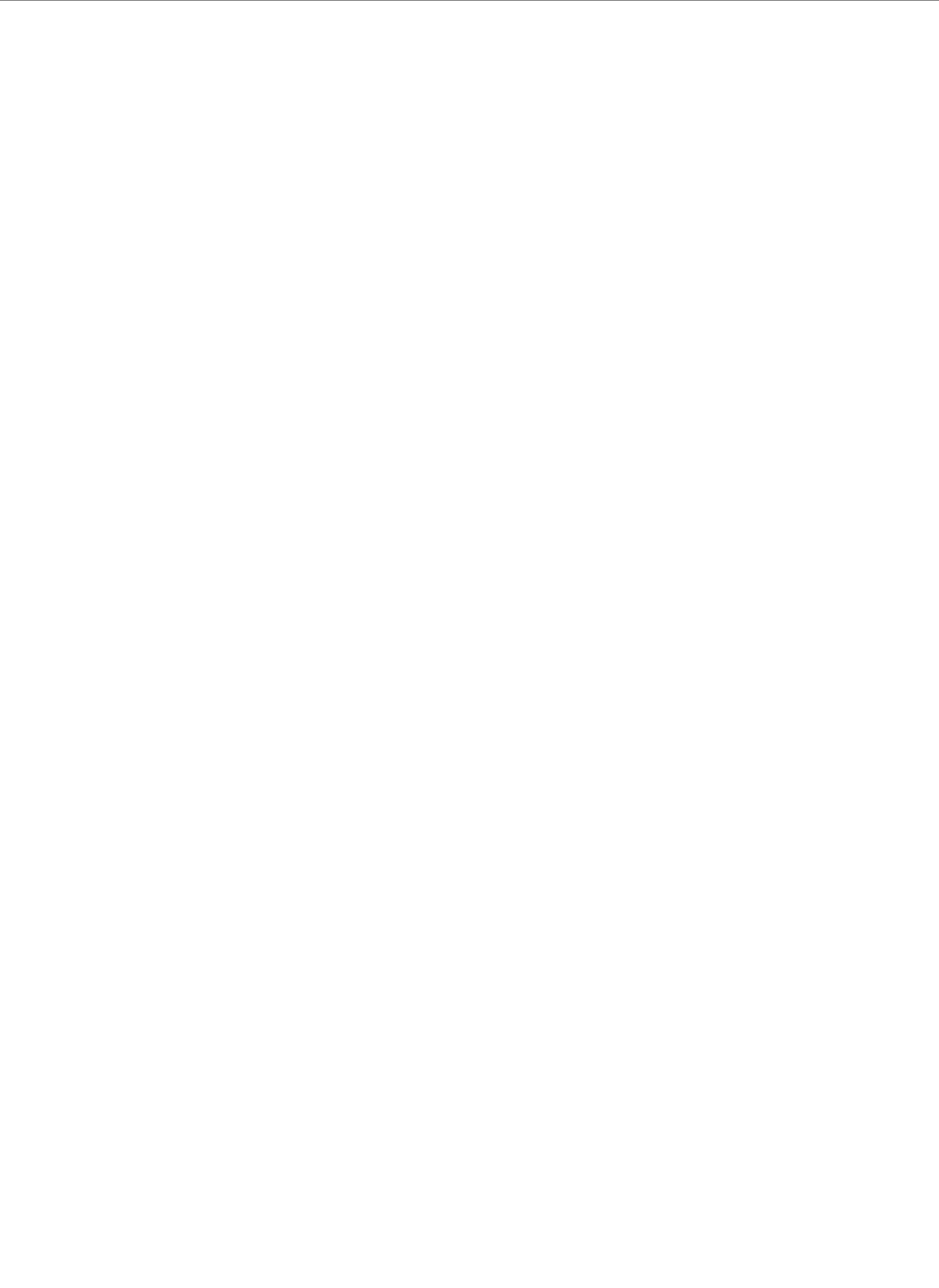
本機のメモリ容量、PCIスロットの使用状況などのハードウェア構成およびインストールされているソフトウェアについての情報が得られます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

ハードディスクドライブ障害時の自動バックアップ機能

ハードディスクドライブの異常を監視します(SMART機能)。標準装備されているハードディスクドライブは、S.M.A.R.T(Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology)に対応しています。また、「Masty Data Backup/F」との連携によってバックアップをとることができます。

参照　『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加(Windows XP Professional、Windows XP Home Editionの場合)」の「Masty Data Backup」

PART

2

周辺機器を利用する

別売の周辺機器の取り付け/取り外し方法や注意事項などを説明しています。

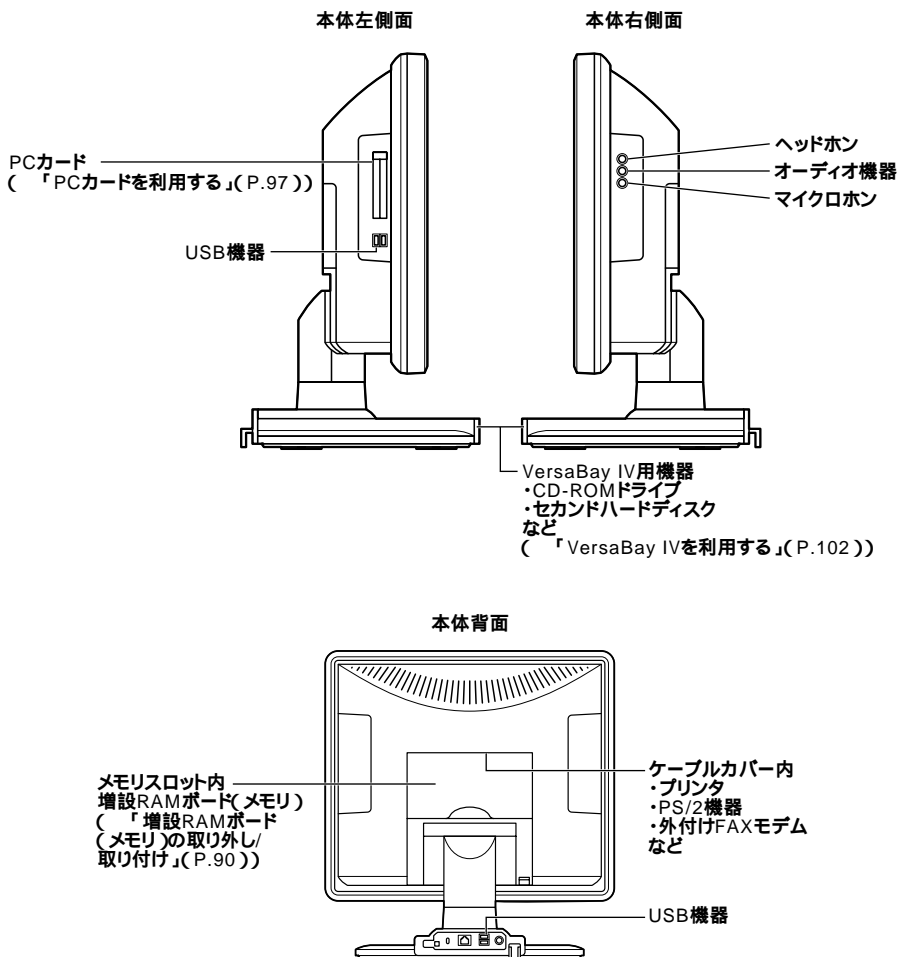
この章の読み方

次ページの「接続できる周辺機器」、「接続にともなう注意点」(P.81)を読んだ後に、目的にあわせて次に該当するページを読んでください。

この章の内容

接続できる周辺機器 80
接続にともなう注意点 81
本体カバー類の取り外し 87
増設RAMボード(メモリ)の取り外し/取り付け 90
PCカードを利用する 97
VersaBay IVを利用する 102
2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードの取り外し/取り付け 104

接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器が取り付けられます。

接続にともなう注意点

周辺機器を取り付ける場合、次のようなことに注意してください。

接続前の確認

●**取り付けたい周辺機器は、本機で使えるものですか？**
取り付けたい周辺機器が本機で使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルで確認するか、製造元に問い合わせてください。なお、NEC製の周辺機器で接続可否の確認がとれているものについては、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で紹介しています。

http://121ware.com/

「レスキュー」→「商品情報」→「商品の適合検索」をご覧ください。

●**リソースは確保されていますか？**
周辺機器を使うには、「リソース」が必要です。「デバイスマネージャ」で、その周辺機器で使用されるリソースが空いているかどうか確認してください。リソースが足りない場合は、使わない機器や機能のリソースを空けて、その分を取り付けたい周辺機器が使えるよう設定を変更します。

プラグ&プレイ セットアップについて

周辺機器の中には、デバイスドライバ（デバイスのためのソフトウェア）のセットアップが必要なものがあります。
プラグ&プレイとは、取り付けたハードウェアを自動的に検出してセットアップを行う機能です。
新しいハードウェアを取り付けると、次に電源を入れたときにWindowsによって自動的に新たなハードウェアが検出され、必要に応じてデバイスドライバウィザードが起動されます。外付けの周辺機器を接続した場合は、本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。
周辺機器にデバイスドライバのフロッピーディスクまたはCD-ROMが添付されている場合は、周辺機器のマニュアルの指示に従ってセットアップを行ってください。

デバイスドライバの追加について

- 周辺機器によっては、デバイスドライバのセットアップが必要な場合があります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、必要なデバイスドライバを組み込んでください。
- デバイスドライバを組み込んだ後、本機の再起動を求められることがあります。その際には他の操作をせずに直ちにWindowsを再起動してください。
- デバイスドライバを組み込んだ後の再起動の際には、通常よりも時間がかかることがあります。正常に再起動されるまで電源は切らないでください。
- Windows XP対応のドライバが「121ware.com」で提供されている場合がありますので定期的に確認してください。

接続時に注意すること

⚠ 注　意

・雷が鳴り出したら、本機や電源ケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け/取り外しをしたりしないでください。
落雷による感電のおそれがあります。

・濡れた手で触らないでください。
電源ケーブルがACコンセントに取り付けられているときに、濡れた手で本体に触ると、感電の原因になります。

・周辺機器の取り付け/取り外しをするときは、必ず電源ケーブルのプラグをACコンセントから抜いてください。
電源ケーブルがACコンセントに取り付けられたまま周辺機器の取り付け/取り外しをすると、本機や周辺機器の故障、場合によっては感電の原因となります。

・本体内部に手を入れるときは、指をはさんだりぶつけたりしないように注意してください。

・本機の使用直後は、本体カバー類を取り外さないでください。本体内部が高温になっていますので、本体内部のカバー類に手を触れるとやけどをする恐れがあります。本体カバー類を取り外す場合は、電源を切って30分以上たってから行ってください。

・周辺機器は、このマニュアルや周辺機器のマニュアルに従って正しく取り付けてください。
正しく取り付けられていないと、発煙や火災の原因となります。

接続がうまくできない場合

●ケーブルは正しく取り付けられていますか？

見落としがちなことですが、本機や周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたりすることはよくあります。ケーブルがきちんと取り付けられているか、確認してください。

●デバイスドライバは組み込みましたか？最新のものですか？

周辺機器を取り付けてもデバイスドライバが組み込まれていないと、使うことはできません。周辺機器のマニュアルをご覧になり、デバイスドライバを組み込んでください。

また、周辺機器のデバイスドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「デバイスドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、デバイスドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器の製造元に問い合わせて、最新のデバイスドライバを入手してください。なお、NEC製の最新ドライバはNECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で提供しています。

http://121ware.com/

「レスキュー」の「ダウンロード」→「NECサポートプログラム」をご覧ください。

●READMEファイルや「補足説明」を読みましたか？

アプリケーションに付いているREADMEファイルには、マニュアルやヘルプに記載されていない重要な情報が掲載されていることがあります。また、「補足説明」には、本機をご利用にあたっての注意事項や、マニュアルには記載されていない最新の情報について説明しています。添付の「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」に入っている「Mate/Mate R電子マニュアル」からご覧になれます。また以下の方法でもご覧になれます。

・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「補足説明」

●周辺機器を複数取り付けたため、何が原因かわからなくなっていませんか？

このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外します。その後、1つずつ取り付けては本機を起動させるという作業を繰り返します。本機が起動しないなどの現象を発生させる機器があったら、その機器に問題があります。リソースの設定やデバイスドライバの設定などが正しく設定されているか、確認してください。

●トラブルが起きていませんか？
『活用ガイド　ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」からあてはまりそうなトラブルを探してください。あてはまる項目が見つからない場合は、「トラブルを解決するには(ヒント)」をご覧ください。

リソースの競合が起こったら

PCカードは、プラグ&プレイに対応しているため基本的には設定不要ですが、本機が作動しない場合は、リソースの競合が起こっているかもしれませんのでここをお読みください。
最もリソースの競合が起きやすいのは、本機に新しい機器が追加された場合です。新しい機器が検知されたときにシステムの状態が調べられます。
新しい機器がプラグ&プレイに対応している場合は、リソースの競合が起きないように自動的に設定されます。新しい機器がプラグ&プレイに対応していない場合は、リソースの競合が起こるとドライバを組み込めなくなります。本機が起動しなくなるような競合に対しては、二重三重の保護機能が働くように設定されているからです。ドライバの異常、リソースの競合など何らかの障害があると、アイコンに黄色い「!」マークや赤い「×」マークが表示されます。
Windowsで、リソースの競合が起こっているかどうかは、以下の方法で確認してください。

1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をクリック

2 「システムタスク」の「システム情報を表示する」をクリック

3 「ハードウェア」タブの中の「デバイスマネージャ」ボタンをクリック

表示される「デバイスマネージャ」で確認できます。

チェック!!　USB接続のキーボードとマウスをご使用の場合は、「101/102英語キーボード」、「Microsoft Natural PS/2キーボード」または、「PS/2互換マウス」に黄色い「!」が表示される場合がありますが、異常ではありません。

異常が表示された場合は、まずその機器のプロパティを開いてください。「デバイスの状態」の欄に、異常の原因が表示されます。異常の原因がリソースの競合であった場合は、次の方法で解決することができます。

1 「リソース」タブを開く

2 「自動設定」のチェックを外す

3 「設定の登録名」で別の構成を選んでから、「設定の変更」をクリック

チェック!! 選択した機器やリソースの種類によっては、設定値を変更できない場合があります。その場合、競合を起こしているもう一方の機器の設定値を変更してください。なお、本機のリソースについては、「PART4　付録」の「割り込みレベル・DMAチャネル」(P.142)をご覧ください。

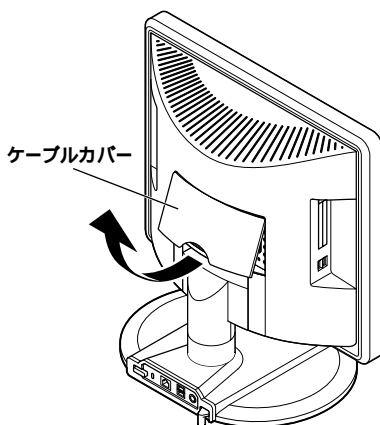
本体カバー類の取り外し

ここでは、内蔵機器を取り付けるときなどに必要なカバー類の取り外し方について説明します。

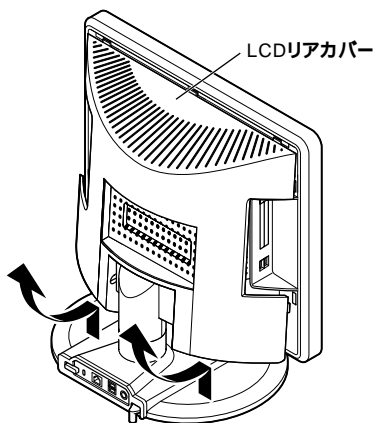
LCDリアカバーの取り外し

メモリの取り付けや2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードを取り外したりする場合は、本体のLCDリアカバーを取り外す必要があります。

1 本機の電源を切る

2 ケーブルカバー内部のコネクタに周辺機器を接続していない場合は、手順3へ進む
ケーブルカバー内部のコネクタに周辺機器を接続している場合は、ケーブルカバーを取り外す

3 本体に接続されているすべてのケーブル(電源ケーブルなど)を取り外す

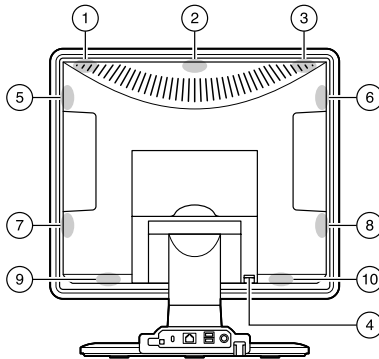
4 盗難防止用の錠を使用している場合は取り外す

5 ディスプレイ下部にあるLCDリアカバーを矢印のように押して、そのまま手前に引いてLCDリアカバーを取り外す

LCDリアカバーの取り付け

1 LCDリアカバー上部のツメ①～③を本体上部の溝に合わせてはめ込み、④の盗難防止ロックの金具がカバーの穴を通るようにしてから、残りのカバーのツメを⑤～⑩の順番にパチンと音がするまで押し込んで、本体の溝にはめ込む

LCDリアカバーを取り付けるときは、盗難防止ロックの金具を押し込み、収納された状態にしてください。

⚠注意

LCDリアカバーを取り付けるときに、本体内部のケーブル類をはさまないようにしてください。

2 盗難防止用の錠を使用している場合は取り付ける

3 ケーブル（電源ケーブルなど）を本体に取り付ける

4 ケーブルカバーを取り外した場合は、ケーブルカバーを取り付ける

増設RAMボード(メモリ)の取り外し/取り付け

大量のメモリを必要とするOSやアプリケーションを使用する場合には、別売の増設RAMボードを取り付けることで、メモリを増やすことができます。

取り付け前の確認

本機に増設RAMボードを取り付ける前に、取り付けられる増設RAMボードを確認します。
本機には、メモリスロットが1つあり、別売の増設RAMボードを取り付けることにより最大640MBまで増設できます。

取り付けられる増設RAMボード

本機には、増設RAMボードを1枚取り付けられます。
取り付け可能な増設RAMボードについては、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で紹介しています。
　http://121ware.com/
「レスキュー」→「商品情報」→「商品の適合検索」をご覧ください。

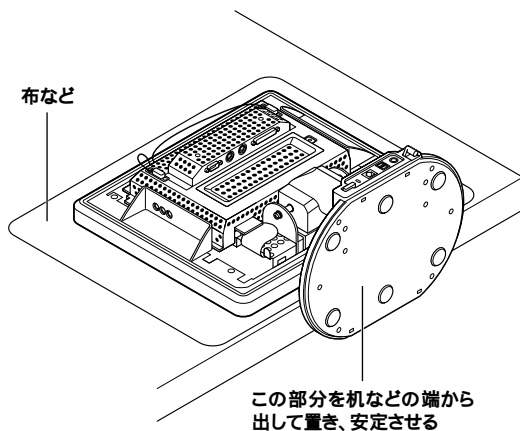
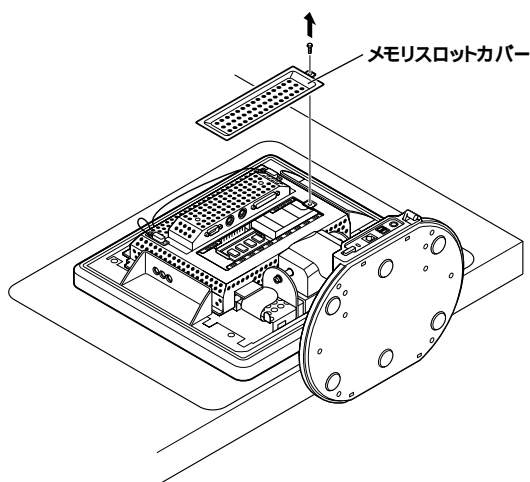
増設RAMボードの取り外し

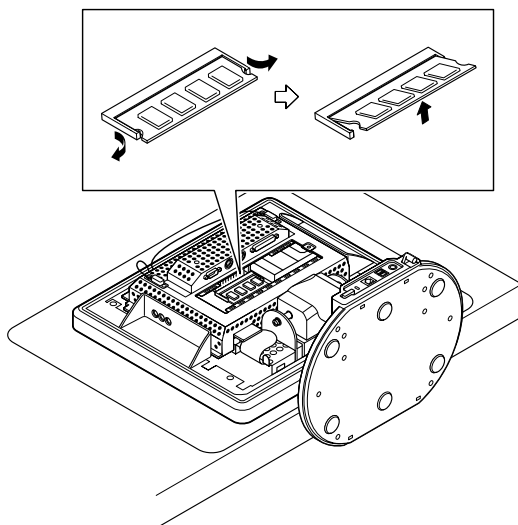
チェック!!

増設RAMボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと、増設RAMボードを破損させる原因となります。増設RAMボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、増設RAMボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に、端子の部分を手で触れないように注意してください。

1 「LCDリアカバーの取り外し」の手順でLCDリアカバーを取り外す(P.87)

2　本機を机の端などの場所に液晶画面を下にして置く

チェック!! **液晶画面を傷付けたりしないように、液晶画面の下に厚手の布や紙などを敷いてから作業してください。**

3　メモリスロットカバーのネジを1本外し、メモリスロットカバーを取り外す

4 コネクタの両端部分を左右に押し広げる

増設RAMボードのロックが外れ、起き上がります。

5 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く

チェック!!
- 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

6 メモリスロットカバーを取り外したときと逆の手順で取り付け、カバーを取り外したときのネジでもと通りに固定する

7 本機を起こす

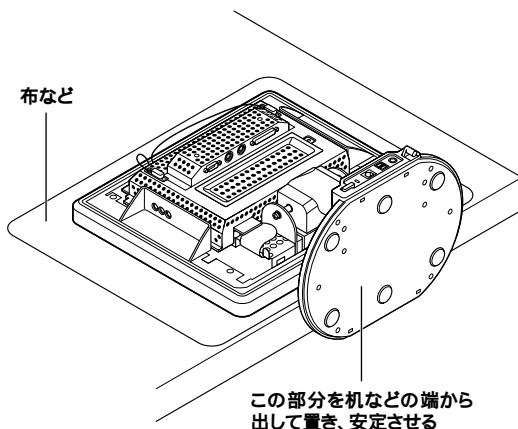
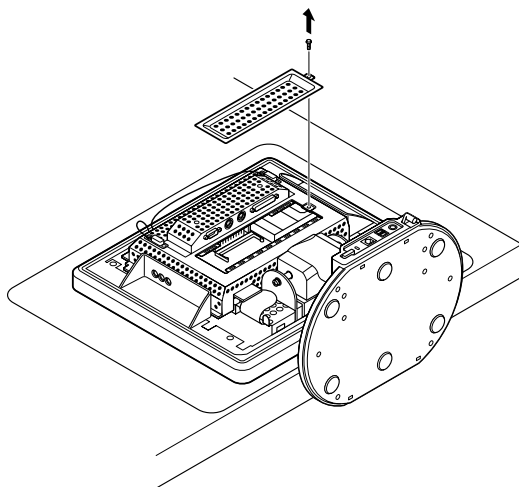
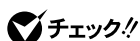
8 「LCDリアカバーの取り付け」の手順で、LCDリアカバーを取り付ける（P.89）

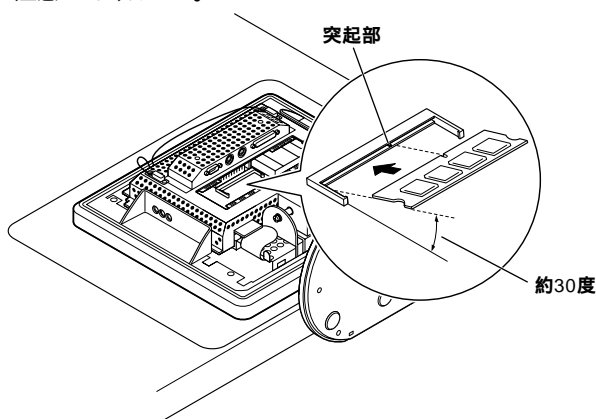
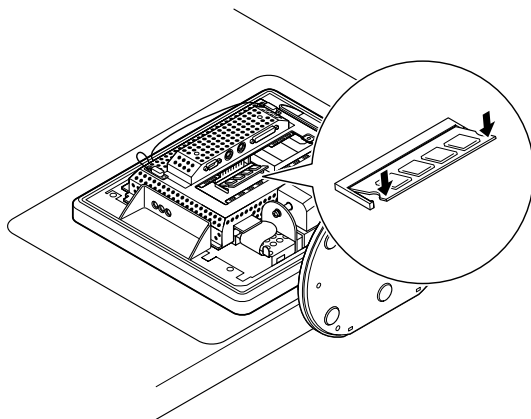
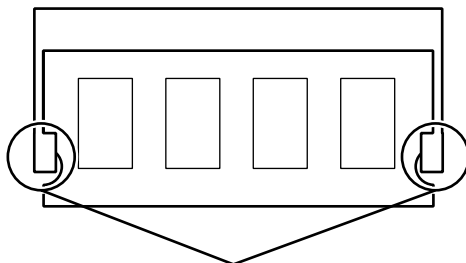
増設RAMボードの取り付け

チェック!! 増設RAMボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと、増設RAMボードを破損させる原因となります。増設RAMボードに触れる前に、身近な金属（アルミサッシやドアのノブなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、増設RAMボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に、端子の部分を手で触れないように注意してください。

1 「LCDリアカバーの取り外し」の手順で、LCDリアカバーを取り外す（P.87）

2 本機を机の端などの場所に液晶画面を下にして置く

チェック!! 液晶画面を傷付けたりしないように、液晶画面の下に厚手の布や紙などを敷いてから作業してください。

3 メモリスロットカバーを固定しているネジ(1本)を外し、メモリスロットカバーを取り外す

4 増設RAMボードの切り欠き部分を本機コネクタの突起部にあわせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで差し込む

チェック!!

- **増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。**
- **ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。**
- **増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードを破損させる原因となります。取り付け方向に注意してください。**

5 **カチッと音がする位置まで増設RAMボードを本機コネクタに強く倒し込む**

チェック!! **増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認してください。**

6 **メモリスロットカバーを取り外したときと逆の手順で取り付け、カバーを取り外したときのネジでもと通り固定する**

7 **本機を起こす**

8 **「LCDリアカバーの取り付け」の手順で、LCDリアカバーを取り付ける(P.89)**

メモリ取り付け後は、次の「メモリ容量の確認方法」(P.96)に従って、取り付けが正しく行われたかどうか確認してください。

メモリ容量の確認方法

1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」をクリック

2 「システムタスク」の「システム情報を表示する」をクリック

「システムのプロパティ」の「全般」タブの中にメモリの容量が表示されます。

チェック!!

- 「PART3　システム設定」「Mainの設定」の「Extended Memory」(P.120)でも確認することができます。メモリの容量を確認すると、搭載されている容量より数MB少ない容量が表示されることがあります。これはメインメモリがシステムに割り当てられるためで、故障ではありません。
- 電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの容量によって変わってきます。これは、メモリの初期化のためです。512MBを1枚増設した場合、約6秒かかります。

メモ

表示されたメモリ容量が正しくない場合は、メモリが正しく取り付けられているか、本機で使えるメモリを取り付けているかを確認してください。

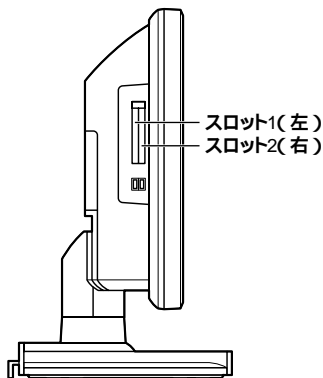
PCカードを利用する

本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を取り付けることができます。

PCカード

PCカードとは、社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)とPCMCIA(Personal Computer Memory Card International Association)との間で共同で標準化を進めているカードの名称のことです。PCカードにはさまざまな種類があり、用途も幅広く使われています。メモリカードやモデムカード、SCSIインタフェース対応機器をつなげるためのSCSI PCカードなどがあり、ハードディスクとして使われるカード(ATAカードなど)もあります。

PCカードスロットについて

TYPE IかTYPE IIのPCカードを各スロットに1枚ずつ2枚まで、または2つのスロットをあわせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。なお、本機では、ZVポート対応のPCカードは使用できません。

使用上の注意

PCカードの取り扱い

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- 高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- 濡らさないでください。
- 重いものを載せたり、ねじ曲げたりなどしないでください。
- ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。
- 本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

⚠注意

- 本機の使用直後はPCカードが熱くなっていますので、取り外し/取り付けにご注意ください。

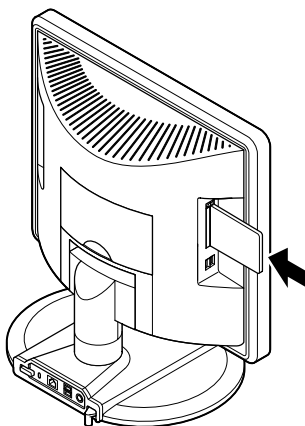
Windows使用中の取り扱い

- 本機がスタンバイ状態または休止状態の場合、PCカードをセットしたり取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されるとデータを消失させてしまうことがあります。

PCカードの取り付け

1 PCカードの差し込む向きを確認し、PCカードイジェクトボタンが収納された状態でPCカードの表面(ラベル面)を本体背面側に向け、垂直にまっすぐ静かに差し込む

⚠注意

●PCカードには表と裏があり、スロットへ差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損させるおそれがあります。
●PCカードイジェクトボタンが突き出た状態でカードを差し込むと、イジェクトボタンを収納できなくなります(イジェクトボタンが出た状態のままになります)。カードを差し込むときは、イジェクトボタンを収納(カチッと音がするまで押し付ける)してから差し込んでください。

PCカードの取り外し

1 **タスクトレイにあるPCカードのアイコンをダブルクリック**

「ハードウェアの安全な取り外し」の画面が表示されます。

チェック!! SCSI PCカードを取り外すときタスクトレイの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」でエラーとなる場合があります。このような場合はWindows XPを終了してからSCSI PCカードを取り外してください。

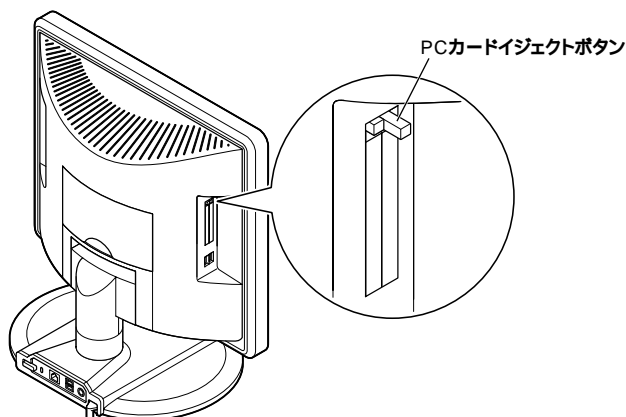
2 **取り出したいPCカードを選択し、「停止」ボタンをクリック**

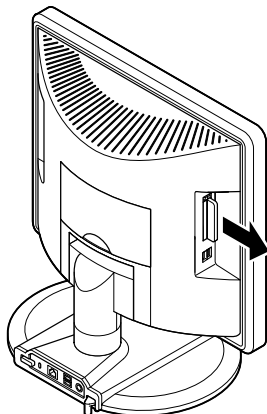
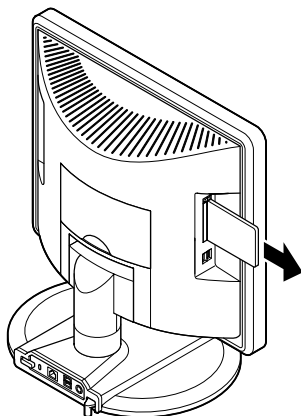
3 **「ハードウェアデバイスの停止」の画面で、「OK」ボタンをクリック**

安全に取り外せるという内容のメッセージが表示されます。

4 **「閉じる」ボタンをクリック**

5 **PCカードイジェクトボタンを指で軽く押し込んでから指を離す**

PCカードイジェクトボタンが飛び出ます。

6 **飛び出たPCカードイジェクトボタンをロックされるまで押し込む**

PCカードが押し出されます。

7 **PCカードを静かに取り出す**

VersaBay IVを利用する

本機のVersaBay IVには、別売のVersaBay IV用オプション機器を取り付けて使用することができます。セカンドハードディスクドライブを選択した場合、工場出荷時に取り付けられていたVersaBay IV用の機器と交換することで使用できます。

VersaBay IVで使用できる機器

本機のVersaBay IVには次のような機器を取り付けて使用することができます。

- セカンドハードディスクドライブ
- CD-ROMドライブ
- CD-R/RWドライブ
- CD-R/RW with DVD-ROMドライブ

など

取り付け可能なVersaBay IV用の機器については、NECのパソコン関連総合サイト「121ware.com」で紹介しています。
http://121ware.com/
「レスキュー」→「商品の適合検索」をご覧ください。

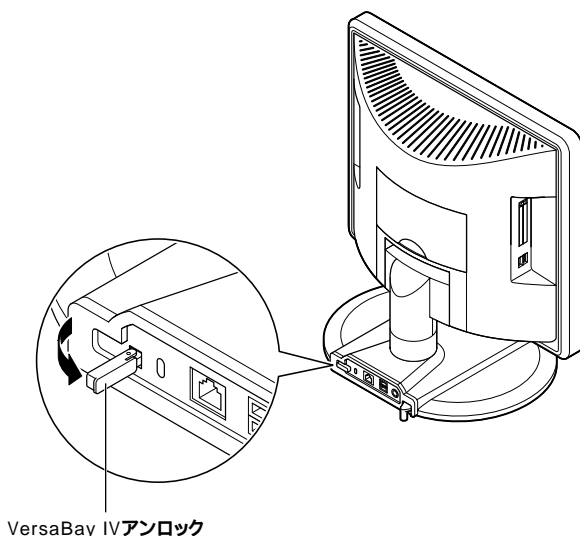
チェック!! 本機のハードディスクパスワード機能を使用してセキュリティーを有効にしたハードディスクは、他機では使用できません。他機で使用する場合は、「PART3　システム設定」「Securityの設定」の「Assign HDD Password」をご覧になり「Primary Master HDD Password」または、「Secondary Master HDD Password」を「Disabled」に設定してください。(P.128)

VersaBay IVの機器を交換する

チェック!! VersaBay IVの機器を交換するときは、本機の電源を切ってから行ってください。本機の電源が入っている状態や、スタンバイ状態または休止状態中の交換は、できません。

1 本機の電源を切る

2 筐体ロックなどを使用している場合は取り外す

3 本体背面にあるVersaBay IVアンロックを、図のように引き起こす

4 引き起こしたVersaBay IVアンロックを押し込む
取り付けられていた機器が少し押し出されます。

5 取り付けられていた機器を引き抜く

6 取り付ける機器を挿入し、奥まで押し込む

チェック!! VersaBay IVに機器を取り付ける場合は、本機を傾けたりせずに、水平に近い状態にして機器を押し込んでください。本機を傾けた状態で機器を落として取り付けたりすると、本機や機器の故障の原因となる場合があります。

7 筐体ロックなどを使用している場合は取り付ける

8 引き起こしたVersaBay IVアンロックを折りたたみ、もとの位置に戻す

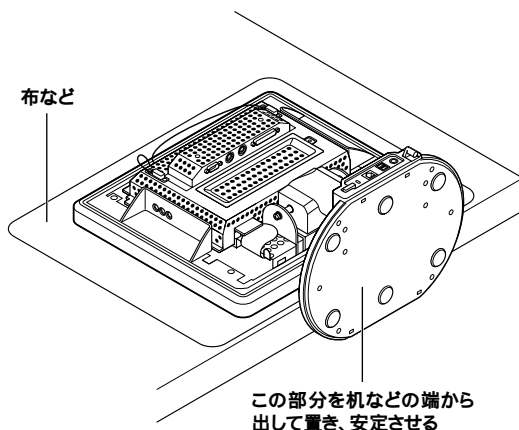
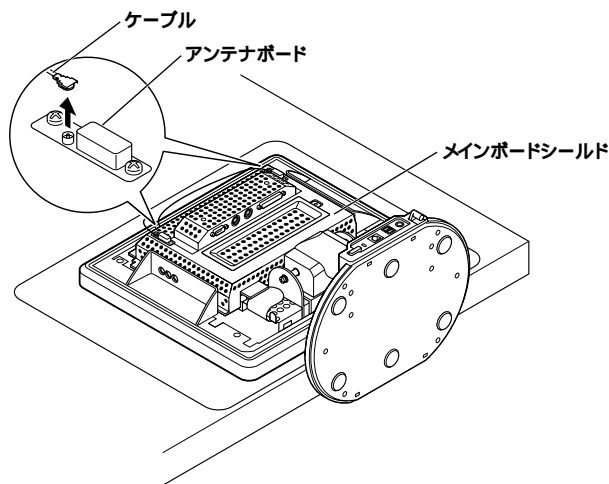
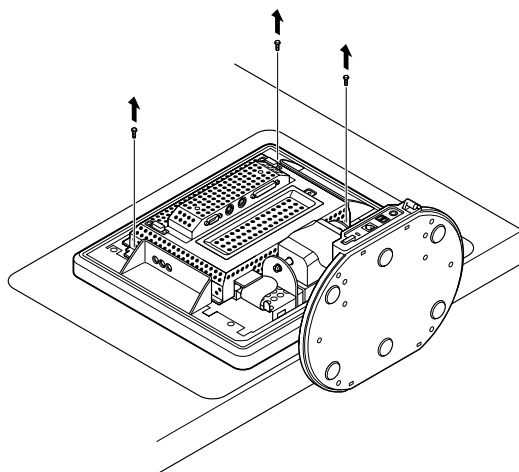
2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードの取り外し/取り付け

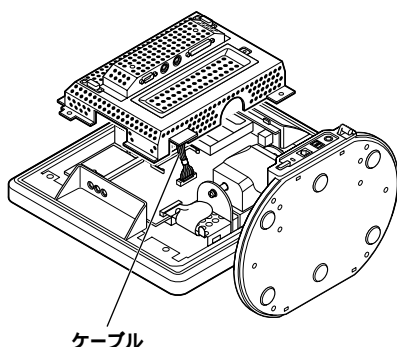
2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードの取り外し

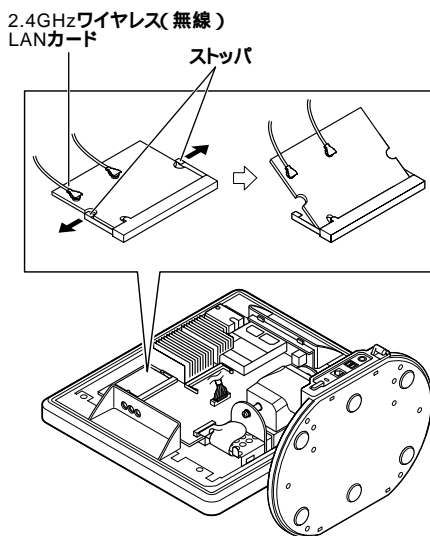
チェック!! **2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で、2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードを扱うと、2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードを破損させる原因となります。2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードを持つときは、カードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に端子の部分を手で触れないように注意してください。**

1 「LCDリアカバーの取り外し」の手順で、LCDリアカバーを取り外す(P.87)

2 本機を机の端などの場所に、液晶画面を下にして置く

チェック!! **液晶画面を傷付けたりしないように、液晶画面の下に厚手の布や紙などを敷いてから作業を行ってください。**

3 メインボードシールド上にあるアンテナボード（2ヵ所）から2.4GHzワイヤレス（無線）LANカードのケーブルを取り外す

4 メインボードシールドのネジ（3本）を外す

5 メインボードシールドを静かに持ち上げて裏側に向け、メインボードシールドのケーブルを留めているクリップ(2ヵ所)からケーブルを外して本体の横に静かに置く

チェック!! **メインボードシールドを持ち上げるときに、強く引っ張り上げないでください。ケーブルを傷める原因となります。また、メインボードシールドを持つときは、本体の上に落とさないように注意してください。**

6 スロットの両端にある金属製のストッパを広げ、ロックを外す

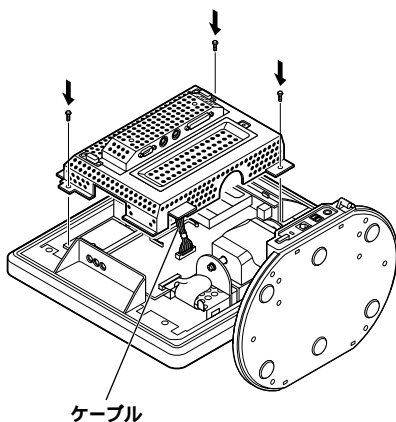
外れると、2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードのロックが起き上がります。

7 そのまま2.4GHzワイヤレス（無線）LANカードを引き抜く

取り外した2.4GHzワイヤレス（無線）LANカードは、静電気防止用の袋などに入れて保管してください。

チェック!!
- 2.4GHzワイヤレス（無線）LANカードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- カード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

8 メインボードシールドのケーブルをメインボードシールドの裏側にあるクリップ（2ヵ所）ではさみ、メインボードシールドを取り外したときのネジ（3本）でメインボードシールドを取り付ける

⚠注意

メインボードシールドを取り付けるときに、本機内部のケーブル類をはさまないようにしてください。

9 本機を起こす

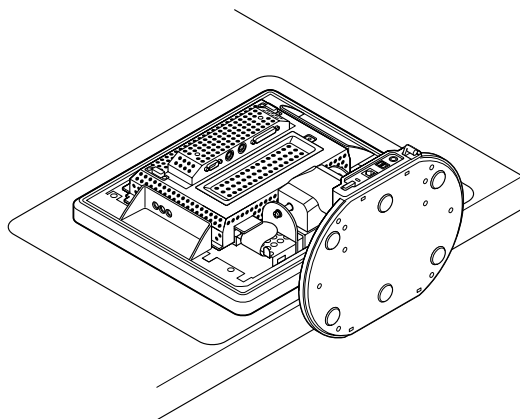
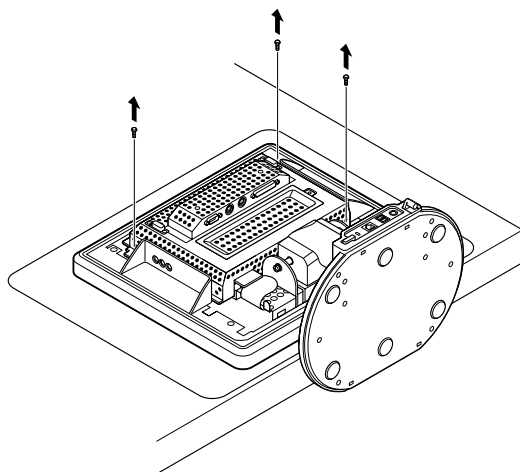
10 「LCDリアカバーの取り付け」の手順で、LCDリアカバーを取り付ける（P.89）

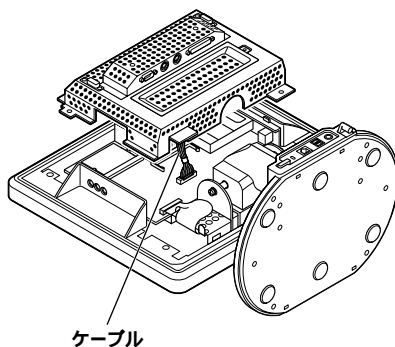
2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードの取り付け

チェック!! 2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で、2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードを扱うと、2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードを破損させる原因となります。2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードを持つときは、カードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に端子の部分を手で触れないように注意してください。

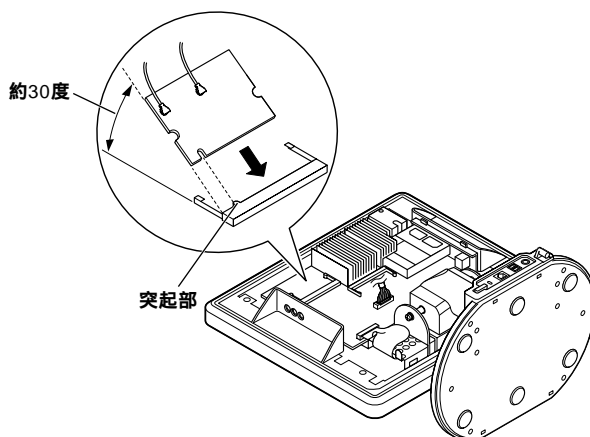
1 「LCDリアカバーの取り外し」の手順で、LCDリアカバーを取り外す(P.87)

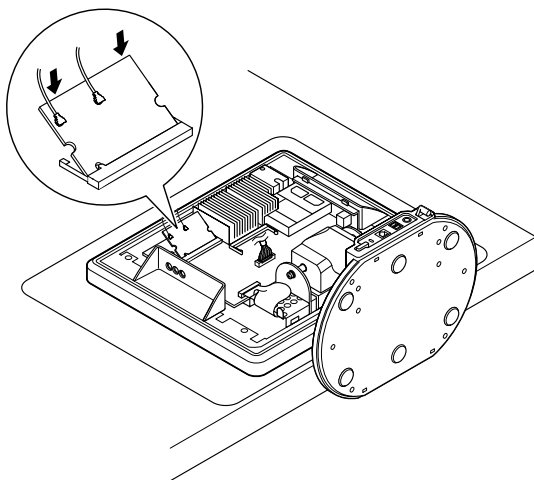
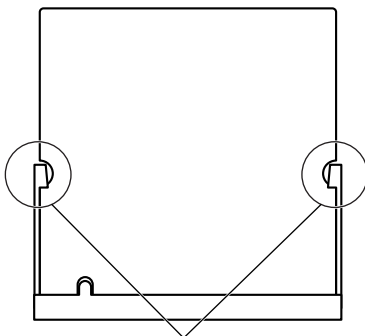
2 本機を机の端などの場所に、液晶画面を下にして置く

チェック!! 液晶画面を傷付けたりしないように、液晶画面の下に厚手の布や紙などを敷いてから作業を行ってください。

3　メインボードシールドのネジ(3本)を外す

4　メインボードシールドを静かに持ち上げて裏側に向け、メインボードシールドのケーブルを留めているクリップ(2ヵ所)からケーブルを外して本体の横に静かに置く

チェック!!　**メインボードシールドを持ち上げるときに、強く引っ張り上げないでください。ケーブルを傷める原因となります。また、メインボードシールドを持つときは、本体の上に落とさないように注意してください。**

5　2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードの切り欠き部分をスロット突起部に合わせ、スロットに対して約30度の挿入角度で2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードをしっかり差し込む

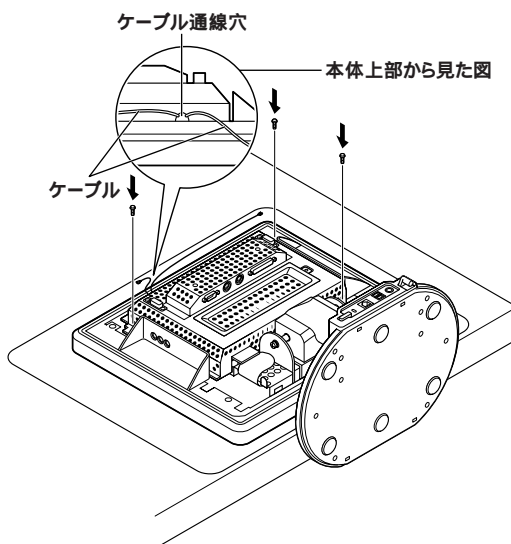
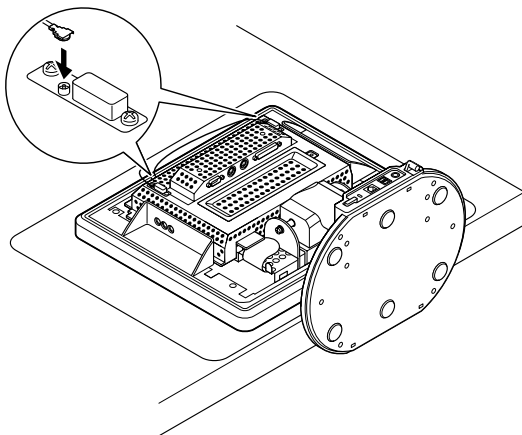
チェック!!

- **2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。**
- **カード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。**
- **カードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、スロット部や2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードを破損させる原因となります。取り付け方向に注意してください。**

6 カチッと音がする位置まで2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードをスロットに倒し込む

チェック!! **カードがしっかりと差し込まれていない状態で無理に倒し込もうとすると、スロット部や2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードを破損させる原因となります。カードがしっかりと差し込まれていることを確認してください。**

チェック!! **2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードがスロットにしっかりロックされたこと確認してください。**

7 **メインボードシールドのケーブルをメインボードシールドの裏側にあるクリップ(2ヵ所)にはさみ込む**

8 **2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードのケーブル(2本)をメインボードシールド上部にあるケーブル通線穴を通るようにしておき、メインボードシールドを取り外したときのネジ(3本)でメインボードシールドを取り付ける**

⚠注意

メインボードシールドを取り付けるときに、本機内部のケーブル類をはさまないようにしてください。

9 **2.4GHzワイヤレス(無線)LANカードのケーブル(2本)をメインボードシールド上にあるアンテナボード(2ヵ所)に取り付ける**

10 **本機を起こす**

11 **「LCDリアカバーの取り付け」の手順で、LCDリアカバーを取り付ける(P.89)**

PART

3

システム設定

この章では、BIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて 116
Mainの設定 119
Advancedの設定 121
Securityの設定 125
Powerの設定 132
Bootの設定 134

BIOSセットアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。

BIOSセットアップメニューの起動と初期画面

1 電源を入れた直後に表示される「NEC」のロゴ画面で、「Press 〈F2〉 to Enter BIOS Setup,〈F12〉 to Network Boot.」(※)と表示されたら、【F2】を押す

以下の画面が表示されます。

※ メニューを日本語に設定した場合は、「〈F2〉:BIOSセットアップメニューを起動します、〈F12〉:ネットワークブートします。」と表示されます。

```
                         PhoenixBIOS Setup Utility
  Main   Advanced   Security   Power   Boot   Exit                          ← メニューバー
  System Time :                 [hh:mm:ss]           | Item Specific Help
  System Date :                 [mm/dd/yyyy]         | <Tab>, <Shift-Tab>, or
                                                     | <Enter> selects field
  Language :                    [English(US)]        |
                                                     |
▶ Primary Master                [××××××]             |
▶ Primary Slave                 [None]               |                      ← パラメータ
▶ Secondary Master              [××××××]             |
▶ Secondary Slave               [None]               |
                                                     |
▶ Keyboard Features                                  |
  Boot-time Diagnostic Screen   [Disabled]           |
                                                     |
  System Memory                 624KB                |
  Extended Memory               ××KB                 |
  BIOS Revision                 ××××××××             |

 F1  Help    ↑↓Select Item    −/+  Change Values     F9 Setup Defaults
 Esc Exit    ←→Select Menu    Enter Select▶Sub-Menu  F10 Save and Exit      ← キーステータスバー
```

チェック!!

- ブート可能なUSB機器(USB対応フロッピーディスクドライブなど)を接続していると、入力した【F2】が認識されにくい場合があります。この場合は、これらのUSB機器を取り外してから、再度上記手順を行ってください。取り外した機器は、BIOSセットアップメニューを終了した後で、再度接続してください。
- ディスプレイ特性により、「NEC」のロゴ画面が表示されず、【F2】を押すタイミングが計れない場合があります。この場合は、本体の電源を入れた直後、キーボード上のNumLockランプが点灯するタイミングで【F2】を2〜3回押してください。

メモ

BIOSセットアップメニューの基本操作

- 【↑】【↓】【←】【→】で設定項目および設定項目内を選択します。
- 「Date」「Time」の設定ではカーソル移動は【Tab】で行います。
- 【Enter】で設定項目を表示します。

BIOSセットアップメニューの終了

メニューバーの「Exit」の選択項目

選択項目	説　　明
Exit Saving Changes	変更した内容を保存してから終了します。（【F10】を押す終了方法と同じ）
Exit Discarding Changes	変更した設定を保存せずに終了します。
Load Setup Defaults	すべての選択項目を工場出荷時の設定値に戻します。（【F9】を押す方法と同じ）ユーザパスワードで起動した場合、本項目が選択できなくなります。
Discard Changes	変更前の値に戻します。ユーザパスワードで起動した場合、本項目が選択できなくなります。
Save Changes	変更した値を保存します。

工場出荷時の設定値に戻す

工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

1 **電源を入れる**

2 **「NEC」ロゴの画面で、「Press 〈F2〉 to Enter BIOS Setup, 〈F12〉 to Network Boot.」と表示されたら、【F2】を押す**
BIOSセットアップメニューが表示されます。

3 **【F9】を押す**
「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。

4 **「Yes」を選択し、【Enter】を押す**
工場出荷時の設定値を読み込みます。

5 【F10】を押す

「Setup Confirmation」のダイアログボックスが表示されます。

6 「Yes」を選択し、【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

Mainの設定

Mainの設定

(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

●**System Time(☆)**
現在の時刻を「時:分:秒」で入力します。

●**System Date(☆)**
日付を「月/日/年」で入力します。

●**Language(☆)**
BIOSで使用する言語を設定します。日本語または英語を選択できます。工場出荷時は「English(US)」に設定されています。

●**Primary Master**
現在接続されているIDEデバイス(工場出荷時に内蔵されているハードディスクドライブ)が表示されます。

チェック!! 本項目の設定は変更しないでください。

●**Primary Slave**
本項目には何も表示されません。

●**Secondary Master**
現在接続されているIDEデバイス(CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブが搭載されているモデルでは、工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブ)が表示されます。なお、セカンドハードディスクドライブを選択した場合、本体に添付して出荷されます。

チェック!! 本項目の設定は変更しないでください。

●**Secondary Slave**
本項目には何も表示されません。

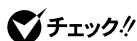
●**Keyboard Features**

キーボード機能を設定します。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説　　明
NumLock	Auto /On/Off	起動時にNum Lockを有効にするかどうかを設定します。
Key Click	Disabled /Enabled	キークリック音を使用するかどうかを設定します。
Keyboard auto-repeat rate	30/sec、26.7/sec、21.8/sec、18.5/sec、13.3/sec、10/sec、6/sec、2/sec	キーリピート間隔を設定します。
Keyboard auto-repeat delay	1/4sec、1/2sec、3/4sec 1sec	キーリピートが開始されるまでの待ち時間を設定します。
Legacy USB Support	Disabled/ Enabled	USBレガシー機能を設定します。
USB Packet Size	8 /64	USBデバイスを認識する際の最初のデータパケットサイズを設定します。通常は「8」のままご利用ください。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

●**Boot-time Diagnostic Screen**

起動時に自己診断画面を表示するかを設定します。「Enabled」にするとNECのロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。工場出荷時は「Disabled」です。

エラーメッセージが表示された場合は、『活用ガイド　ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」をご覧ください。

●**System Memory**

搭載されているシステムメモリ容量を表示します。

●**Extended Memory**

搭載されている拡張メモリ(メインRAM)を表示します。

●**BIOS Revision**

搭載されているBIOSのリビジョンを表示します。

Advancedの設定

Advancedの設定

ユーザパスワードで起動した場合、「Advancedの設定」が選択できなくなります。

●Plug & Play O/S
プラグ&プレイ対応のオペレーティングシステムを使用している場合は、「Yes」を選択します。工場出荷時は、「Yes」に設定されています。

●Reset Configuration Data
PCIボードなどのプラグ&プレイ機器の設定値のみを初期化したい場合には、「Yes」を選択します。工場出荷時は「No」に設定されています。ただし、「Yes」に設定した後、再度BIOSセットアップメニューを起動すると「No」に戻ります。

●PCI Configuration

チェック!! **本項目の設定は変更しないでください。**

●I/O Device Configuration
入出力機器の設定を行います。この項目にカーソルをあわせ【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説　　明
Serial port A (シリアルコネクタ)	Disabled	シリアルポートAが使用できなくなり(I/Oロック)、割り込みが開放されます。
	Enabled	I/Oベースアドレスと割り込みが設定できます。
	Auto	I/Oベースアドレスと割り込みを自動的に設定します。
Base I/O Address	3F8/2F8/3E8/2E8	I/Oベースアドレスを設定します。
Interrupt	IRQ3/IRQ4	割込み番号を設定します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説　　明
Parallel port（パラレルコネクタ）	Disabled	パラレルポートが使用できなくなり（I/Oロック）、割り込みが開放されます。
	Enabled	パラレルポートのモード、I/Oベースアドレス、割込み番号を設定できます。
	Auto	自動的にパラレルポートを設定します。
Base I/O Address	378/278/3BC	オプションを使用してパラレルポートにI/Oアドレスを設定します。
Interrupt	IRQ5/IRQ7	パラレルポートに割込み番号を設定します。
Mode	Output only/Bi-directional/ECP	モードを設定します。ご利用のプリンタのモードについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
DMA Channel	DMA 1/DMA 3	パラレルポートがECPモードのときに使用するDMAチャネルを設定します。「Mode」で「ECP」を選択した場合に表示されます。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

参照　**I/Oロック→「Securityの設定」（P.129）**

●Large Disk Access Mode

チェック!!　**本項目の設定は変更しないでください。**

●Local Bus IDE adapter

内蔵用のIDEアダプタを使用するかを設定します。工場出荷時は「Both」に設定されています。

●QuickBoot Mode

「Enabled」に設定した場合、本機起動時の一部のテストをスキップします。システム起動時間が短縮されます。工場出荷時は「Enabled」に設定されています。

●Sound

サウンドのリソースを設定します。

設定項目	設定内容	説　　明
Sound	Enabled	サウンドが使用できます。
	Disabled	サウンドを切り離します。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

●USB2.0

USB2.0のコントローラを使用する場合は、「Enabled」を選択します。
工場出荷時は「Enabled」です。

●DMI Event Logging

起動時に起きたイベントログを参照できます。この項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとサブメニューの設定画面となります。

設定項目	設定内容	説　　明
View DMI Event Log	（設定項目はありません）	【Enter】を押すとDMIイベントログを表示します。
Clear All DMI Event Logs	No /Yes	「Yes」を選択すると、再起動後すべてのDMIイベントログをクリアします。
Event Logging	Disabled/ Enabled	「Enabled」ではDMIイベントログを記録します。
Mark DMI Events As Read	Yes/No	【Enter】を押し、「Yes」を選択すると表示されているログは既読状態となります。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

メモ

DMI（Desktop Management Interface）とは、システム管理を行うために各PCの管理を容易に行うためのハードウェア/ソフトウェアのインタフェースの標準仕様のことです。

●Network Boot Agent

ネットワークブート機能を使用する場合は、「Enabled」を選択します。
工場出荷時は「Enabled」です。

参照 ネットワークブート機能→「PART1　本体の構成各部」の「セキュリティ/マネジメント機能」（P.73）

●Enable CPUID reporting CMPXCHG8B

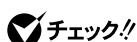
チェック!! **本項目の設定は変更しないでください。**

●Summary Screen

「Enabled」に設定すると起動時にシステム設定状況を表示します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

Securityの設定

Securityの設定

セキュリティに関する各種設定を行います。
項目の右側に(☆)マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

チェック!! **スーパバイザパスワード/ユーザパスワード、BIOS LOCK、ハードディスクパスワードを設定する場合は、パスワードやパスワードの解除の方法を忘れたときのために、事前にこの「Securityの設定」を印刷しておくことをおすすめします。**

●Supervisor Password Is

スーパバイザパスワードの設定状態を表示します。工場出荷時は「Clear」です。

設定項目	設定内容	説　　明
Supervisor Password Is	(設定項目はありません)	「Set」が表示された場合、スーパバイザパスワードが設定されています。 「Clear」が表示された場合、スーパバイザパスワードが設定されていません。

●Set Supervisor Password

スーパバイザパスワードを設定します。

設定項目	設定内容	説　　明
Set Supervisor Password	(パスワードを設定します)	項目にカーソルをあわせて【Enter】を押すとスーパバイザパスワードの設定画面になります。

●User Password Is

スーパバイザパスワードと同じ表示です。

●**Set User Password(☆)**
スーパバイザパスワードと同じ設定です。

チェック!! ご購入元、またはNECに本機の修正を依頼される際は、設定したパスワードを解除、および無効にしておいてください。

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

メモ

スーパバイザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。
スーパバイザパスワードの設定を行うとBIOSセットアップメニュー起動時、パスワードの入力画面となり設定されたスーパバイザパスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューの起動はできません。

ユーザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限し、BIOSセットアップメニューで設定可能な項目も制限するための機能です。

●**Security Mode**
セキュリティモードを設定します。「Password」と「FingerPrint」が設定できます。工場出荷時は「Password」です。
- 「Password」 …… スーパバイザパスワード設定時に設定します。
- 「FingerPrint」 … 指紋認証ユニット使用時に設定します。

●**Password On Boot**
起動時にパスワード入力を行うかの設定をします。「Security Mode」が「Password」の場合に表示されます。

●**Fixed disk boot sector**
ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかの設定をします。「Write Protect」にすると起動セクタをウィルスから保護します。工場出荷時は「Normal」です。

●**Diskette Access**
下記の設定の後、「Supervisor」に設定するとスーパバイザ以外フロッピーディスクドライブにアクセスできなくなります。工場出荷時は「Supervisor」です。
- スーパバイザ/ユーザパスワードを設定
- 「Password On Boot」を「Enabled」に設定

●Network Boot Setting
この項目にカーソルをあわせ、【Enter】を押すと、サブメニュー設定画面となります。

設定項目	設定内容	説　　明
Keyboard/ Mouse Lock	Disabled/ Enabled	「Enabled」を選択すると、リモート起動時(OSが起動されるまで)にキーボード/マウスをロックします。
BIOS LOCK	Enabled/ Disabled	「Disabled」を選択すると、「Security Mode」で「FingerPrint」が設定されていてもリモート起動時にパスワード入力を要求しません。この項目は、パスワードを設定して「Password On Boot」を「Enabled」に設定した場合、または指紋認証ユニットを接続した場合に表示されます。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

ここでのリモート起動時とは、管理者側のパソコンからクライアントPC(本機)をリモートパワーオン機能により起動することを指します。

参照 **リモートパワーオン機能→「PART1　本体の構成各部」の「セキュリティ/マネジメント機能」(P.73)**

●Virus check reminder
起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」、「Daily」、「Weekly」、「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。

●System backup reminder
起動時に警告メッセージを表示します。表示するタイミングは「Disabled」、「Daily」、「Weekly」、「Monthly」の中から選択します。工場出荷時は「Disabled」に設定されています。二度と同じものを作れないような大切なデータがある場合には、定期的にバックアップをとれるよう、設定を変更することをおすすめします。

●Assign HDD Password

ハードディスクドライブ(プライマリマスタ、セカンダリマスタ)にパスワードを設定します。ハードディスクパスワードには、ハードディスクマスタパスワード(HDD Master Password)とハードディスクユーザパスワード(HDD User Password)の2つがあります。【Enter】を押すとハードディスクマスタパスワードの設定画面が表示され、ハードディスクマスタパスワードを設定すると、ハードディスクユーザパスワードの設定画面が表示されます。次にプライマリマスタの設定を【+】【−】で行います。なお、プライマリマスタの設定を変更されないよう、スーパバイザパスワードを設定してください。

チェック!! ご購入元、またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除、および無効にしておいてください。

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

- **ハードディスクマスタパスワード(HDD Master Password)**
  ハードディスクマスタパスワードは、ハードディスクユーザパスワードを解除するためのパスワードです。ハードディスクマスタパスワードの解除方法については、後述の「ハードディスクパスワードの場合」(P.131)をご覧ください。

- **ハードディスクユーザパスワード(HDD User Password)**
  ハードディスクユーザパスワードは、本機とハードディスクドライブの認証を行うためのパスワードです。ハードディスクユーザパスワードを設定することにより、本機以外でハードディスクドライブの不正使用を防止できます。

チェック!! ハードディスクマスタパスワードを設定していないとハードディスクユーザパスワードを設定することはできません。

⚠注意

設定したパスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータは、当社でも取り出せなくなります。また、パスワードを忘れたために使用できなくなったハードディスクドライブを交換する場合は有償になります。ハードディスクドライブのパスワードは忘れないように十分に注意してください。

設定項目	設定内容	説　　明
Primary Master HDD Password	Enabled/ Disabled	ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)へ、ハードディスクパスワードを設定します。
Secondary Master HDD Password	Enabled/ Disabled	セカンドハードディスクドライブ(VersaBay IV)(セカンダリマスタ)へ、ハードディスクパスワードを設定します。セカンドハードディスクドライブを搭載したモデルの場合に表示されます。

※網かけの部分　　　は、工場出荷時の設定値です。

本機(プライマリマスタにインストールされたWindows)を起動する場合、「Primary Master HDD Password」を「Enabled」にしても、設定したハードディスクマスタパスワードやハードディスクユーザパスワードを入力する必要はありません。

メモ I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/Oを使用しないようにする(ロックする)機能です。BIOSセットアップメニューのI/Oを「Disabled」に設定することでロックを有効にすることができます。対象となるインターフェイスは、シリアルポートA、パラレルポートです。

パスワードの解除

■スーパバイザ/ユーザパスワードの場合

スーパバイザ/ユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューを起動して「Security」の「Set Supervisor Password」または「Set User Password」にパスワードを入れて、新しいパスワードに何も入れずに【Enter】を押すと解除されます。なお、スーパバイザ/ユーザパスワードを忘れてしまった場合のパスワードの解除方法についてはご購入元、またはNECにお問い合わせください。

参照 NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

チェック!! パスワードの解除処置を依頼されるときは、次のことをご確認ください。

- パスワード解除処置は保証期限内でも有償です。
- パスワード解除処置は、原則としてお客様のお持ち込みによる対応となります。また、機密保持のため、お客様ご本人からのご依頼に限り処置をお受けいたします。
- パスワード解除処置を依頼されるときには、次のものをすべてご用意ください。
  1. 本機の購入を証明するもの(保証書など)
  2. 身分証明書(お客様ご自身を確認できるもの)
  3. 印鑑
- パスワード解除処置をご依頼の際、受付にてお客様ご自身により専用の用紙に必要事項を記入・捺印していただくことが必要です。専用用紙の記載事項にご同意いただけない場合には、処置のご依頼に対応しかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ハードディスクパスワードの場合

次の手順でハードディスクドライブのパスワードをすべて解除してください。

1 BIOSセットアップメニューを起動する

参照 「BIOSセットアップメニューについて」(P.116)

2 「Security」を選ぶ

3 「Assign HDD Password」を選んで、【Enter】を押す

ハードディスクパスワードの入力画面が表示されます。

4 ハードディスクマスタパスワードを入力する

5 【Enter】を押す

6 【Enter】を押す

セットアップ通知画面が表示されますので、BIOSセットアップメニューの変更を保存して終了してください。

以上でハードディスクドライブのパスワードがすべて解除されます。

Powerの設定

Powerの設定

省電力の設定を行うための設定項目について説明します。
ACPI対応のオペレーティングシステム(Windows XP、Windows XP Home、Windows 2000)をご利用の場合、設定項目は無効になります。
「System Switch」は、ACPI対応の各オペレーティングシステムの電源管理の項目で設定してください。
(☆)マークがついている設定項目はユーザパスワードでBIOSセットアップメニューを起動したときに変更可能な項目です。

参照 電源管理の設定→Windowsのヘルプ

●System Switch(☆)

「System Switch」は、本体前面にある電源スイッチをパワーボタンまたはスリープボタンとして利用できるようにする機能です。工場出荷時の設定は、「Power Button」に設定されています。

- 「Power Button」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによって電源を入れる/切ることができます。
- 「Sleep Button」に設定した場合は、電源スイッチを押すことによってサスペンド/レジュームまたはスタンバイ/スタンバイから復帰することができます。

「System Switch」の設定を「Power Button」(工場出荷時)から「Sleep Button」に変更した場合の電源を切る操作は、次のようになります。

〈正しく電源を切る方法〉

正しく電源を切る方法については、各オペレーティングシステムの「PART1　本体の構成各部」「電源」の「電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)」をご覧ください。

〈強制的に電源を切る方法〉

ソフトウェアなどのエラーでWindowsが操作できなくなってしまった場合は、『活用ガイド　ソフトウェア編』「トラブル解決Q&A」「電源を切ろうとしたが…」をご覧ください。

●Resume On Modem Ring(☆)

「On」に設定すると、モデムが呼出し信号を受信したときに、本機をスタンバイ状態から復帰します。工場出荷時は、「Off」に設定されています。

●Resume On Time(☆)

「On」に設定すると、レジューム時刻設定時間(Resume Time)で本機をレジュームまたはスタンバイ状態から復帰します。工場出荷時は「Off」に設定されています。

●Resume Time(☆)

レジュームする時刻を設定します。

●Restore On AC/Power Loss

AC電源(AC100V)が失われ、再投入されたとき、どの状態に復旧するかを設定します。

設定項目	設定内容	説　　明
Restore On AC/Power Loss	Power Off	AC投入時に電源は入りません。
	Last state	AC電源が失われたときの状態に戻します。電源が入っている状態で、AC電源が切れた場合は、電源が入ります。電源が切れている状態でAC電源が切れた場合は、電源は入りません。
	Power On	AC投入時に電源が入ります。

※網かけの部分　　　　は、工場出荷時の設定値です。

●On PME

PCIデバイス(LANボード等)によって電源を操作します。リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「Power On」に設定します。工場出荷時は「Stay Off」に設定されています。

メモ

PME(PCI Power Management Event)とは、管理者のパソコンからクライアントPC(本機)をリモートパワーオン機能で起動することです。

参照　リモートパワーオン機能→「PART1　本体の構成各部」の「セキュリティ/マネジメント機能」(P.73)

Bootの設定

起動順位の設定

起動するデバイスを優先順に従ってリスト表示します。本機を起動するデバイス(ブートデバイスともいいます)を設定します。

●起動順位(次の表が表示されます)

設定内容	説　明
＋Removable Devices	本機を起動するデバイスの順番を決めます。設定したデバイスの上から順番に起動されます。
ATAPI CD-ROM Drive	
＋Hard Drive	
Network Boot	
IBA x.x.xx Slot xxxx	

起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【＋】を押すとリストの上側に移動し、【－】を押すとリストの下側に移動します。
複数のデバイスが存在する「Hard Drive」「Removable Devices」についてはさらにその中で起動する順位を設定することができます。

チェック!!

- **使用環境にあわない起動順序に変更すると正常に動作しなくなる場合がありますので、変更には十分注意してください。**
- **使用環境によっては、上記内容の項目が増えることがあります。**
- **内蔵LANから優先して起動する場合は、「Network Boot」ではなく「IBA x.x.xx Slot xxxx」を上側に移動してください。**

●Removable Devices
USB接続のフロッピーディスクドライブ、USB接続のCD-ROMドライブなどの取り外し可能なデバイスの検索する順番を設定します。
本機は、オペレーティングシステムを検索するまで、表示されたリストの上から順に検索を続けます。

●Hard Drive
ハードディスクドライブの検索する順番を設定します。
本機は、オペレーティングシステムを検出するまで、表示されたリストの上から順に検索を続けます。

●USB CD-ROM

「Enabled」に設定するとUSB接続のCD-ROMドライブからの起動を有効にします。

PART

4

付　録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

機能一覧 138

割り込みレベル・DMAチャネル 142

本機のお手入れ 144

機能一覧

型番の読み方

型番の表示場所や確認方法については、『はじめにお読みください』をご覧ください。

仕様一覧

本体機能仕様

表中の※は、ご購入時に選択したモデル構成により異なります。

機種名			MA90W/F	MA80W/F
CPU	CPU種別		Transmeta® Crusoe™プロセッサ	
	クロック周波数		TM5800 900MHz	TM5800 800MHz
	キャッシュメモリ(1次/2次)(CPU内蔵)		128KB/512KB	
	メモリバス		100～133MHz可変	
メモリ	BIOS ROM(Flash ROM)		512KB、プラグ&プレイ対応	
	メインRAM　※		最大640MB(128MB(DDR-SDRAM内蔵)+512MB(SO-DIMMスロット×1))	
	ビデオRAM		16MB	
表示機能	表示素子　注1		15型TFTカラー液晶ディスプレイ	
	グラフィックアクセラレータ		ATI Technologies社製MOBILITY™ RADEON™を搭載	
	グラフィック表示		640×480ドット　最大1,677万色 800×600ドット　最大1,677万色 1,024×768ドット　最大1,677万色	
サウンド機能			YAMAHA社製YMF753を搭載、PCM録音再生機能内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8～48KHz)、全二重対応、内蔵ステレオスピーカ装備、MIDI音源機能(ソフトウェアMIDI)	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ　※		別売のUSB1.1経由外付け3.5型フロッピーディスクドライブ(3モード対応)	
	ハードディスクドライブ　※		Ultra ATA-66対応、SMART機能対応	
		出荷時ソフトウェア占有量	『活用ガイド　ソフトウェア編』「アプリケーションの概要と削除/追加」の「ソフトウェア占有量について」をご覧ください。	
	光ディスク関連　※			
		CD-ROMドライブ	内蔵　最大24倍速	
		CD-R/RWドライブ	内蔵　読み込み：CD-ROMは最大24倍速 書き込み：CD-Rは最大8倍速、CD-RWは8倍速	
		CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	内蔵　読み込み：CD-ROMは最大24倍速、DVD-ROMは最大8倍速 書き込み：CD-Rは最大8倍速、CD-RWは8倍速	

機種名			MA90W/F	MA80W/F
インタフェース	シリアル		最大11,5200bps、D-sub9ピン	
	パラレル		D-sub25ピン	
	USB		4(本体左側面×2、本体背面×2)、USB2.0/1.1対応	
	サウンド関連			
	入　力	マイク入力	モノラル、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大100mVrms、ゲイン20dB	
		ライン入力	ステレオ、ミニジャック、入力インピーダンス10KΩ、入力レベル最大2Vrms、ゲイン-6dB	
	出　力	ヘッドホン出力/ライン出力	ステレオ、ミニジャック、出力レベル最大500mVrms(負荷インピーダンス33Ω)	
	通信関連			
		LAN用モジュラーコネクタ	RJ45(100BASE-TX/10BASE-T)LANコネクタ、リモートパワーオン機能	
		2.4GHzワイヤレス(無線)LAN ※	ORiNOCO™社製2.4GHzワイヤレス(無線)LAN Mini PCIボードを搭載(IEE802.11/802.11b)	
	入力関連　※			
		PS/2 109キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタに接続、マウスはPS/2接続マウスコネクタに接続	
		テンキー付きPS/2小型キーボード	キーボードは、本体PS/2接続キーボードコネクタとPS/2接続マウスコネクタに接続、マウスはキーボードに接続	
		USB 109キーボード	キーボードは、本体USBコネクタに接続、マウスはキーボードに接続(バスパワードハブ×2)、USB1.1対応	
		テンキー付きUSB小型キーボード		
PCカードスロット			TYPE II×2スロット(TYPE III×1スロットとしても使用可)PC Card Standard準拠、Card Bus対応	
ファイルベイ	内蔵3.5型ベイ[空き]		専用1スロット(ハードディスクドライブで占有済)[0]	
	専用3.5型ベイ(VersaBay IV対応)[空き]		専用1スロット(CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブまたはセカンドハードディスクドライブ(VersaBay IV対応)で占有済)[0]　注2	
Mini PCIスロット[空き]			1スロット(TYPE IIIB×1)[1] (TYPE IIIB×1(2.4GHzワイヤレス(無線)LAN Mini PCIボードで占有済)[0]	
カレンダ時計			電池によるバックアップ	
セキュリティ/マネジメント機能	セキュリティ機能		スーパバイザパスワード、ユーザパスワード、ファイアウォール*、I/Oロック、ハードディスクパスワード機能、筐体ロック、ウイルス検出・駆除(「Norton AntiVirus」標準添付)、エンドユーザ管理(「CyberAccess」標準添付) ＊ 別売のPCGATE Ver1.1が必要	
	マネジメント機能		リモートパワーオン機能*、ネットワークブート機能、クライアントモニタリング*、自動バックアップ機能(「Masty Data Backup」標準添付) ＊ Intel LANDesk Client Manager 6(with NEC Extensions)標準添付	
環境条件	電源		AC100V±10%、50/60Hz、ソフトウェアパワーオフ対応	
	温湿度条件		10〜35℃、20〜80%(但し結露しないこと)	
消費電力	本体標準構成時		約31W(最大約80W)	約31W(最大約80W)
	エネルギー消費効率		R区分　0.0044	R区分　0.0050
外形寸法	本体		393.5(H)×226(D)×370(W)mm(ゴム足以外の突起物含まず)	
	キーボード　※			
		PS/2 109キーボード	40(H)×169(D)×456(W)mm	
		テンキー付きPS/2小型キーボード	44(H)×179(D)×382(W)mm	
		USB 109キーボード	39(H)×179(D)×472(W)mm	
		テンキー付きUSB小型キーボード	44(H)×179(D)×382(W)mm	

機種名			MA90W/F	MA80W/F
質量	本体		約7.6Kg	
	キーボード　※			
		PS/2 109キーボード	約0.9Kg	
		テンキー付きPS/2小型キーボード	約1.2Kg	
		USB 109キーボード	約1.2Kg	
		テンキー付きUSB小型キーボード	約1.2Kg	

注1　液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調整具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。

注2　セカンドハードディスクドライブを選択した場合、本体に添付して出荷されます。ご使用の際は工場出荷時に内蔵されているCD-ROMドライブなどを取り外してから実装してください。

LANボード機能仕様

ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時：UTPカテゴリ3,4,5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長　注	100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

注　リピータの台数など、条件によって異なります。

2.4GHzワイヤレス(無線)LAN機能仕様

項　目	仕　様
データ転送速度	11M/5.5M/2M/1M(bps)(自動切替)※1
準拠規格	ARIB STD-T66(小電力データ通信システム規格) IEEE802.11b(ワイヤレスLAN標準プロトコル)
伝送方式	DS-SS方式
伝送距離	見通し約70m(アクセスポイントとの通信時)※2
使用無線チャンネル	1～11ch
RF周波数帯域	2.4GHz帯全域(2.4～2.4835GHz)
温湿度条件	温度:10～35℃ 湿度:20～80%(結露無きこと)

※1: IEEE802.11b規格による速度(理論値)であり、実効速度とは異なります。
※2: 通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、OSなどの使用条件によって異なります。

割り込みレベル・ＤＭＡチャネル

割り込みレベル

工場出荷時の割り込みレベルの割り当ては、次の通りです。

割り込みレベル	デバイス
IRQ00	カウンタおよびタイマ
IRQ01	PS/2接続キーボード
IRQ02	割り込みコントロ ーラ
IRQ03	（空き）
IRQ04	シリアルポート（A）　※1
IRQ05	（空き）
IRQ06	（空き）
IRQ07	（空き）
IRQ08	リアルタイムクロック
IRQ09	ACPI-Compliment System/PCカード/サウンド/グラフィック/LAN/USB/ワイヤレス（無線）LAN　※2
IRQ10	（空き）
IRQ11	（空き）
IRQ12	PS/2接続マウス
IRQ13	数値演算コプロセッサ
IRQ14	プライマリIDE
IRQ15	セカンダリIDE

※1　別のI/O機器に変更する場合は、BIOSの設定を変更してください。
※2　2.4GHzワイヤレス(無線)LANを搭載したモデルの場合

参照 「PART3　システム設定」「Advancedの設定」の「I/O　Device Configuration」（P.121）

DMAチャネル

工場出荷時のDMAチャネルの割り当ては、次の通りです。

DMA チャネル	データ幅	デバイス
0	8または16ビット	（空き）
1	8または16ビット	（空き）
2	8または16ビット	（空き）
3	8または16ビット	（空き）
4	――――――――	DMAコントローラ
5	16ビット	（空き）
6	16ビット	（空き）
7	16ビット	（空き）

本機のお手入れ

本機のお手入れは、それぞれ次の要領で行ってください。

⚠注　意

●お手入れの前には、本機の電源を切って電源コードのプラグをACコンセントから抜いてください。
感電の原因になります。

●電源コードのプラグにほこりがたまったままの状態で、本機を使用しないでください。
電源コードのプラグにほこりがたまったまま長い間清掃しないと、プラグのピンの間で放電（トラッキング現象）が起こり、火災の原因となります。

本体
布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。

本体の内部
長時間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。本体内部の清掃については、ご購入元、またはNECにお問い合わせください。
NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ
クリーニングディスク（別売）を使ってクリーニングします。ひと月に1回を目安にクリーニングしてください。

電源コード
電源コードのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的に清掃してください。

ディスプレイ
布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。また、ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽く拭いてください。

キーボード
布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元、またはNECにお問い合わせください。
NECのお問い合わせ先→『NEC PCあんしんサポートガイド』

マウス
布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。

マウスの内部
マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。
→「マウスのクリーニング」（次ページ）

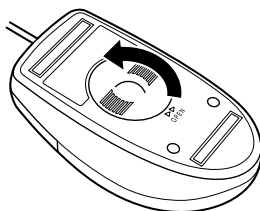
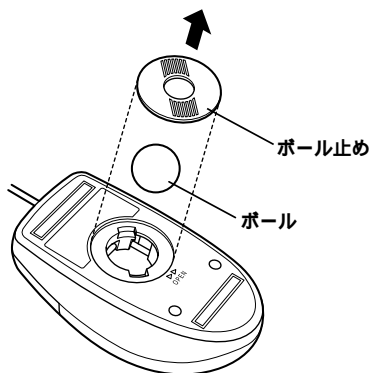
チェック!!

- **水や中性洗剤は、絶対に本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。**
- **シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本体の外装をいためたり、故障の原因となったりします。**

マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4〜6の手順は省略してもかまいません。

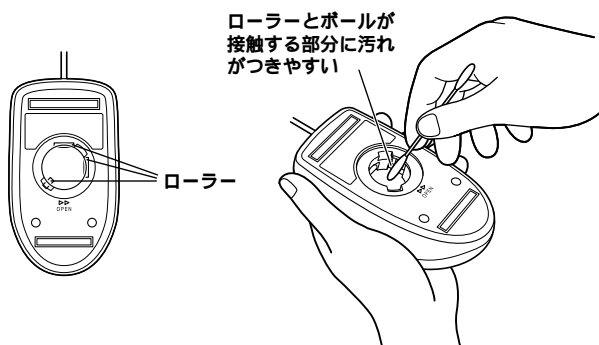
1 本機の電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す

2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる

3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す

4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす

5 水で中性洗剤を洗い落とす

6 布で水分を拭き取り、風通しの良いところで充分に乾燥させる

7 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす

汚れが落ちないときは、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取ります（このとき、歯ブラシに水やはみがき粉などを付けないでください）。

8 ボールをマウスに戻す

9 ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定

チェック!!

- クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- 水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。

活用ガイド

ハードウェア編

PC98-NX シリーズ

Mate

液晶一体型

（Windows XP Home Editionインストールモデル）

初版　2002年6月
NEC
P

853-810067-348-A